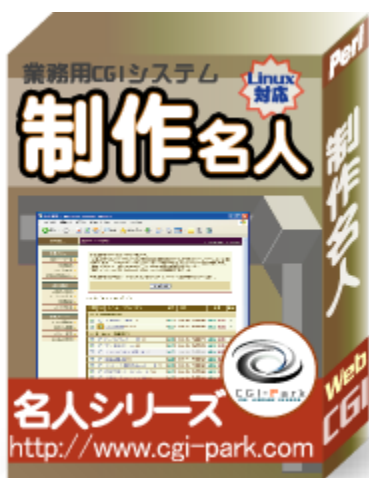




CGI-Park 名人シリーズ

制作名人 システム管理者マニュアル Ver1.3



本マニュアルの対象商品

- ✓制作名人 Ver 1.2.0
- ✓制作名人 Ver 1.2.1

目次

1. はじめに
 - 1-1. 本ソフトの概要と主な特徴
 - 1-2. CGIの動作環境
 - 1-3. 本ソフトのファイル構成と付属ドキュメント
2. 初期設定
 - 2-1. ログファイルの拡張子の設定
 - 2-2. Perlのパスの設定
 - 2-3. 複数の製品を組み合わせる利用する場合の設定
 - 2-4. SSL領域で本ソフトをご利用いただく場合の設定
3. サーバへのセットアップ
 - 3-1. サーバへのアップロード
 - 3-2. パーMISSIONの設定
 - 3-3. セットアップ開始
 - 3-4. セットアップ完了
4. 管理画面の設定
 - 4-1. 試用開始
 - 4-2. システム管理者パスワードの設定
 - 4-3. 環境設定
 - 4-4. フォルダ位置の設定
 - 4-5. 管理者アカウントの設定
5. コンテンツ登録のための設定手順と作業概要
 - 5-1. 作業にかかる前の準備
 - 5-2. 設定手順の概要
6. テンプレートの設定
 - 6-1. テンプレートの設定について
 - 6-2. 入力フォームの項目設定
7. デザインテンプレートを作成する
 - 7-1. コンテンツのデザインを作成する上での基本ルール
 - 7-2. デザインテンプレートを作成する上での基本ルール
 - 7-3. 基本フレームのデザインテンプレートの作成
 - 7-4. 全一覧ページのデザインテンプレートの作成
 - 7-5. カテゴリ別一覧ページのデザインテンプレートの作成
 - 7-6. 全一覧、カテゴリ一覧ページで複数列表示を行う方法
 - 7-7. 検索結果一覧のデザインテンプレートの作成
 - 7-8. インデックス表示用デザインテンプレートの作成
 - 7-9. 詳細ページ用デザインテンプレートの作成
 - 7-10. カテゴリメニュー用デザインテンプレートの作成
8. その他の設定と公開準備
 - 8-1. 公開用CGIプログラムを設定する
 - 8-2. インデックス表示とピックアップランダム表示
 - 8-3. 動作確認を行なう
9. その他の技術情報
 - 9-1. スタイルシートが正しく適用されない場合の設定
 - 9-2. 管理画面へのログイン履歴
 - 9-3. 管理メニューの設定
 - 9-4. 本ソフトのライセンス情報について
 - 9-5. システムのアップデート
 - 9-6. システムの再構築

1. はじめに

システム管理者マニュアル Ver1.3

1-1. 本ソフトの概要と主な特徴

ホームページ内のコンテンツを作成・管理するCGI (CMS)

制作名人はホームページのコンテンツ管理システム(CMS)で、定型フォーマットで入力できる商品情報ページや業務実績紹介ページなどをコンテンツ作成・管理するためのシステムです。

柔軟なカスタムが可能なため、さまざまな利用方法が考えられます。

主な特徴

1. 定型フォーマットに沿ってデータを入力して行くだけでHTMLページが作成できる
あらかじめ作成しておいた入力フォームに、文章や画像の登録を行なうだけで簡単にホームページにコンテンツを作成することが出来ます。入力作業はフォームに沿って入力していただくので、ワープロ入力程度のスキルがあれば誰でも入力が行なえます。

また、作成されたページはすべてHTMLファイルとして書き出されるので、検索エンジン対策(SEO)になったり、静的なページのためサーバへの負荷も軽減されます。
2. 入力フォームは利用目的に合わせて細かく設定できる
様々な利用目的に柔軟に対応できるように、作成する入力フォームは画像データ最大6箇所、さらにそれぞれの画像に対して、画像のタイトルと説明文が付けることが出来ます。それ以外にテキスト入力フォームが最大で10箇所まで作成できます。
3. 入力するデータは、カテゴリ別の登録が出来る
本ソフトでは、登録する情報をカテゴリ別に分類することが出来ます。
カテゴリの追加・変更・削除は管理画面から行なえるので、新たなカテゴリを追加したい場合などでも迅速に対応できます。
また、カテゴリの登録件数には制限がないので、必要な数だけ自由に増やすことが出来ます。
4. 作成したHTMLページの「公開」「非公開」が管理画面上で行なえる
入力したデータは管理画面上で一覧表示でき、ホームページ上に公開するかどうかを、ボタン一つで切り替えることが出来ます。新規にデータを登録しても、すぐに公開したくない場合や、古い情報を一時的に非公開したいときなどに便利です。また、公開すると同時にトップページ等で「おすすめ新着情報」といった形で任意のデータをピックアップすることが出来ます。
また、一覧表示の際の表示順序も自由に変更できます。
5. 公開されているコンテンツは、ホームページ上からキーワード検索が出来る
ホームページ上に公開されているデータはキーワード検索が行なえるようになってるので、膨大な情報が登録されていても閲覧者は簡単に希望の情報を見つけ出すことが出来ます。
HTMLで書き出された静的なページとCGIで動く動的なページをシームレスに連携して、まったく違和感のない動作を実現しています。

1. はじめに

システム管理者マニュアル Ver1.3

1-2. CGIの動作環境

本CGIは下記の条件を満たしているWEBサーバにおいて動作するように設計されています。

ただし、下記の条件を満たしている場合でも必ず動作するわけではありませんので、本ソフトを購入する前に必ずWEBサーバでの動作確認を行なってください。

【動作環境】

- ✓ サーバのOSがUNIX系のOSであること
- ✓ Perl 5.00503 以上がインストールされていること
- ✓ Sendmailが利用できること
- ✓ ImageMagickおよび、PerlMagickが利用できること(任意)
ImageMagickが利用可能な場合は、画像サイズの自動変換機能を利用することが出来ます。

1. はじめに

システム管理者マニュアル Ver1.3

1-3. 本ソフトのファイル構成と付属ドキュメント (1/2)

✓ 本ソフトは以下のファイルで構成されています。

■フォルダ □ファイル	説明
■ seisaku1_2_0	解凍後に出来上がるフォルダ。後ろの数字はバージョンを表しています。(1_0_0 → Ver 1.0.0)
■ seisaku	本ソフトのフォルダ
■ cgi	各種CGIプログラムの格納フォルダ
□ conf.pl	システム基本情報の定義ファイル
□ folder.pl	フォルダ情報の定義ファイル
□ setup.cgi	システムセットアップ用プログラム
■ image	各種イメージファイル、スタイルシートを格納
□ *.gif, *.jpg	管理画面で利用している各種イメージファイル
□ font.css	フォント設定を記述したスタイルシート
□ style.css	テーブルやセルのデザインを記述したスタイルシート
□ window.js	管理画面で用いる各種JavaScript
■ item	コンテンツファイル格納フォルダ
□ ca001.html	カテゴリ別一覧ページ(サンプル)
□ index.cgi	公開ページ用CGIプログラム
□ index.html	登録情報全一覧ページ(サンプル)
□ menu.html	SSI表示用カテゴリメニュー(サンプル)
□ p0001.html	詳細ページ(サンプル)
□ sample.htm	インデックスページ(サンプル)
□ style.css	サンプルページ用スタイルシート
□ temp-base.htm	基本ページデザインテンプレート
□ temp-cate.htm	カテゴリ一覧用デザインテンプレート
□ temp-list.htm	登録情報全一覧用デザインテンプレート
□ temp-menu.htm	SSI表示用カテゴリメニューデザインテンプレート
□ temp-search.htm	検索結果表示用デザインテンプレート
□ temp-T01.htm	詳細ページ用デザインテンプレート
□ temp-top.htm	インデックス表示用デザインテンプレート

1. はじめに

システム管理者マニュアル Ver1.3

1-3. 本ソフトのファイル構成と付属ドキュメント (2/2)

☒ フォルダ ☐ ファイル	説明
☒ log	ログファイル格納フォルダ
☐ category.log	メールログ格納フォルダ
☐ conf.log	環境設定定義ファイル
☐ index.htm	ダミーHTMLファイル
☐ log.log	メインログファイル
☐ meijin.log	システム基本情報定義ファイル
☐ menu.log	管理メニュー定義ファイル
☐ system.log	システム構成定義ファイル
☐ T01.db	入力フォーム構成定義ファイル(サンプル)
☐ template.log	デザインテンプレート情報定義ファイル
☒ photo	アップロード画像格納フォルダ
☒ ドキュメント	本ソフトの付属ドキュメントを格納
☐ ソフトウェア使用許可契約書.txt	ソフトウェア使用許可契約書(必ずお読みください)
☐ システム管理者マニュアル.pdf	システム管理者用マニュアル

2-1. ログファイルの拡張子の設定

ログファイルの拡張子の設定について

システムのセットアップを行なう前に、ログファイルの拡張子の設定を行なう必要があります。デフォルトの拡張子は「.log」となっています。

ログファイルの保存フォルダをWEB公開領域(ブラウザからアクセスすることが出来るフォルダ)に置く場合は拡張子を必ず「.cgi」等の実行形式の拡張子に変更してください。「.log」のままにしておくと、ブラウザから直接ログファイルにアクセスされた際、ログファイルの中身が表示されてしまい、大切な個人情報等が漏洩してしまう可能性があります。

✓ ログファイルの拡張子を変更する

「seisaku¥cgi¥conf.pl」というファイルをテキストエディタで開いてください。

```
13行  $log_ext = 'log';
```

と記述された箇所があります。これの'log'の部分を変更したい拡張子に書き換えてください。

ただし、[html][db][mail]を使用することは出来ません。

実行形式の拡張子にしたい場合は[cgi]にすることをおすすめします。

[cgi]にすると、たとえブラウザから直接そのログファイルにアクセスして来た場合でも、「Internal Server Error」となり、ファイルを開くことは出来ません。

2. 初期設定

システム管理者マニュアル Ver1.3

2-2. Perlのパスの設定

Perlのパスについて

WEBサーバ上のどこにPerl処理系があるかを示すもので、設置するサーバの環境に合わせてPerlの実行ファイルに記述する必要があります。

不明な場合は、サーバにTelnetでアクセスし、

```
% which perl
```

と入力してみてください。画面にPerlのパスが表示されるはずです。

通常Perlのパスは「/usr/bin/perl」または「/usr/local/bin/perl」のどちらかになると思います。

本ソフトではデフォルトで「/usr/bin/perl」としています。お使いのサーバと異なる場合は下記を参考にして必ず書き換えてください。

✓ Perlのパスを書き換える

「seisaku¥cgi¥setup.cgi」というファイルをテキストエディタで開きます。1行目に

```
#!/usr/bin/perl
```

と記述されています。これを設置するサーバの環境に合わせて書き換えてください。

通常は以下のいずれかになると思います。

```
#!/usr/local/bin/perl
```

```
#!/usr/bin/perl
```

```
#!/bin/perl
```


2. 初期設定

システム管理者マニュアル Ver1.3

2-3. 複数の製品を組み合わせて利用する場合の設定

✓ 複数の商品を組み合わせて利用する

当社の製品を複数ご利用いただく場合、商品ごとに別々にログインしたり、それぞれに管理者アカウントを作成しては作業効率が悪くなります。

そこで、当社製品を複数まとめて利用する場合、一つのWEB管理画面としてまとめて利用することが出来るようになっています。

✓ 設定方法

すべての商品で共有する情報は、管理者アカウント情報とログイン履歴情報、ログインクッキーの保存名です。

この3つを同一の設定にすることで、管理画面を一つにまとめることが出来るのです。

まず、管理者アカウント情報とログイン履歴情報の保存先を統一させます。

そこで、この2つのファイルを保存するための共通のフォルダを作成してください。例では下記の場所にフォルダを作成したと仮定します。

/web/cgi-bin/seisaku/cgi/admin.cgi	← 管理画面CGIの位置
/web/cgi-bin/seisaku/log	← 共有ログファイルの既定値
/cgi-data/common	← 新しく作成した共有フォルダ

「seisaku¥cgi¥folder.pl」をテキストエディタで開いてください。

29行 ### ログファイル共有フォルダ

30行 \$CoLogDir = "";

という箇所があると思います。ここで先ほど作成した共通のログファイル保存フォルダの位置を指定します。

29行 ### ログファイル共有フォルダ

30行 \$CoLogDir = "../../../cgi-data/common";

以上で管理者アカウント情報とログイン履歴情報の共有化作業が完了しました。

続いて、ログインクッキーの名前を統一させます。デフォルトの状態では、すでに統一されているので特に修正する必要はありませんが、状況に応じて修正したい場合は、下記の要領で行ってください。

「seisaku¥cgi¥conf.pl」をテキストエディタで開きます。

22行 \$cookie_name = 'meijin';

という箇所がありますので、「'meijin'」という部分を変更したいクッキー名に書き換えてください。変更した名前はすべての商品にも反映させる必要があります。

以上で、共有化の設定が完了です。

2. 初期設定

システム管理者マニュアル Ver1.3

2-4. SSL領域で本ソフトをご利用いただく場合の設定

- ✓ 本ソフトをSSL領域で利用する場合は以下の設定を行なう必要があります。
この設定を行なわないと試用期間を開始したりライセンスの登録が正しく行な
われない可能性があります。

- ✓ 設定方法

「seisaku¥cgi¥conf.pl」をテキストエディタで開いてください。(下図参照)
ここで、37行目の「\$admin_cgi_path = '」;」にhttps:///～から始まる
「seisaku¥cgi¥admin.cgi」までのパスを指定します。

例) \$admin_cgi_path = 'https://www.cgi-park.com/cgi-bin/cgi/admin.cgi';

```
#■■■ admin.cgiまでのフルパス ■■■  
#試用期間の開始やライセンスの登録がうまくいかない場合に設定を行ないます。  
#主にSSL領域に本CGIを設置した場合に設定が必要になります。  
#設定を行う場合は、http://またはhttps://から始まるadmin.cgiまでのパスを指定してください。  
# 例) $admin_cgi_path = 'https://www.cgi-park.com/cgi-bin/cgi/admin.cgi';
```

```
$admin_cgi_path = ";
```

3. サーバへのセットアップ

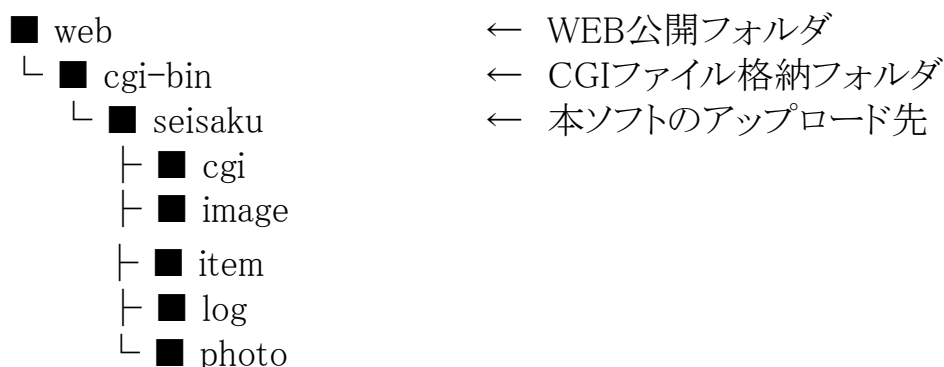
システム管理者マニュアル Ver1.3

3-1. サーバへのアップロード

システムの初期設定が完了したら、いよいよセットアップ作業を開始します。まず、「seisaku」フォルダ以降をすべてFTPでサーバにアップロードします。（「ドキュメント」フォルダはアップロードする必要はありません。）

ちなみに、「seisaku」というフォルダ名は、好きな名前に変更することが出来ます。必要に応じて変更してください。

例では、下記のようにcgi-binフォルダ以降にアップロードすると仮定します。



3. サーバへのセットアップ

システム管理者マニュアル Ver1.3

3-2. パーミッションの設定

本ソフトをサーバにアップロードしたら、お使いのサーバに合わせてパーミッションを変更してください。CGIの動作権限がowner権限かother権限かでパーミッションの設定方法が異なる場合があります。

■フォルダ □ファイル	Owner権限	Other権限	■フォルダ □ファイル	Owner権限	Other権限
■ cgi-bin			■ log	変更不要	707
■ seisaku	変更不要	705	□ category.log	変更不要	606
■ cgi	変更不要	705	□ conf.log	変更不要	606
□ conf.pl	変更不要	606	□ index.htm	変更不要	変更不要
□ folder.pl	変更不要	606	□ log.log	変更不要	606
□ setup.cgi	705	705	□ meijin.log	変更不要	606
■ image	変更不要	707	□ menu.log	変更不要	606
□ *.gif, *.jpg	変更不要	変更不要	□ system.log	変更不要	606
□ font.css	変更不要	変更不要	□ T01.db	変更不要	606
□ style.css	変更不要	変更不要	□ template.log	変更不要	606
□ window.js	変更不要	変更不要	■ photo	変更不要	707
■ item	変更不要	707	□ *.gif	変更不要	変更不要
□ ca001.html	変更不要	606			
□ index.cgi	705	705			
□ index.html	変更不要	606			
□ menu.html	変更不要	606			
□ p0001.html	変更不要	606			
□ sample.htm	変更不要	606			
□ style.css	変更不要	変更不要			
□ temp-base.htm	変更不要	変更不要			
□ temp-cate.htm	変更不要	変更不要			
□ temp-list.htm	変更不要	変更不要			
□ temp-menu.htm	変更不要	変更不要			
□ temp-search.htm	変更不要	変更不要			
□ temp-T01.htm	変更不要	606			
□ temp-top.htm	変更不要	変更不要			

3. サーバへのセットアップ

3-3. セットアップ開始

✓ セットアップ開始画面へアクセス

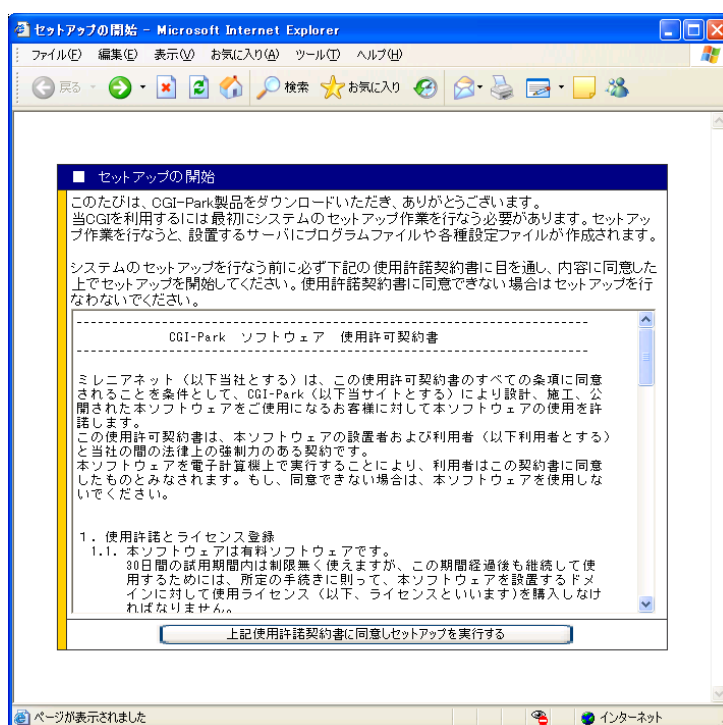
サーバへファイルをすべてアップロードしたら、セットアップ開始ページ「cgi/setup.cgi」にアクセスします。

たとえば、設置するサイトのURLが「www.cgi-sample.com」で、サーバへのアップロード先が「cgi-bin/seisaku/」とすると、セットアップの開始画面は

<http://www.cgi-sample.com/cgi-bin/seisaku/cgi/setup.cgi>

になります。このページをブラウザでアクセスすると、下記の画面が現れます。

下記の画面が現れず「Internal Server Error」等になる場合は、CGIの実行時にエラーが発生しています。前項「2-2. Perlのパスの設定」や「3-2. パーミッションの設定」が正しく行われているか再度ご確認ください。



セットアップ開始画面

✓ セットアップ開始

セットアップ開始画面では、本ソフトの「ソフトウェア 使用許可契約書」が表示されています。

必ず、契約書の内容に目を通し、同意した上でセットアップを開始してください。契約書内容に同意できない場合は、決してセットアップを行わないでください。

【セットアップエラー】

セットアップ開始ボタンをクリックした後、エラーメッセージが表示された場合は、何らかの原因によりセットアップが正常に行なわれなかった可能性があります。

その場合、本マニュアルを参考にし、再度正しくアップロードされているかご確認ください。

3. サーバへのセットアップ

システム管理者マニュアル Ver1.3

3-4. セットアップ完了

セットアップが完了すると、システムに必要なプログラムファイルや設定ファイルが作成されます。

★マークが付いている箇所がセットアップ後に作成されたファイルやフォルダとなります。

■フォルダ □ファイル	説明
■ seisaku	本ソフトのフォルダ
■ cgi	各種CGIプログラムの格納フォルダ
□ admin.cgi ★	管理画面メインプログラム
□ conf.pl	システム基本情報の定義ファイル
□ folder.pl	フォルダ情報の定義ファイル
□ index.cgi ★	公開ページ用CGIプログラム
■ data ★	データファイル格納フォルダ
■ html ★	システムHTMLファイル格納フォルダ
■ image	各種イメージファイル、スタイルシートを格納
■ item	コンテンツファイル格納フォルダ
■ lib ★	CGIライブラリ格納フォルダ
■ log	ログファイル格納フォルダ
■ photo	アップロード画像格納フォルダ
□ index.cgi ★	管理画面トップページ

セットアップが完了すると、セットアップ用CGIプログラムがなくなり、代わりに管理画面用メインプログラム等が新に作成されます。

セットアップの開始画面が

<http://www.cgi-sample.com/cgi-bin/seisaku/cgi/setup.cgi>

の場合、管理画面のトップは

<http://www.cgi-sample.com/cgi-bin/seisaku/index.cgi>

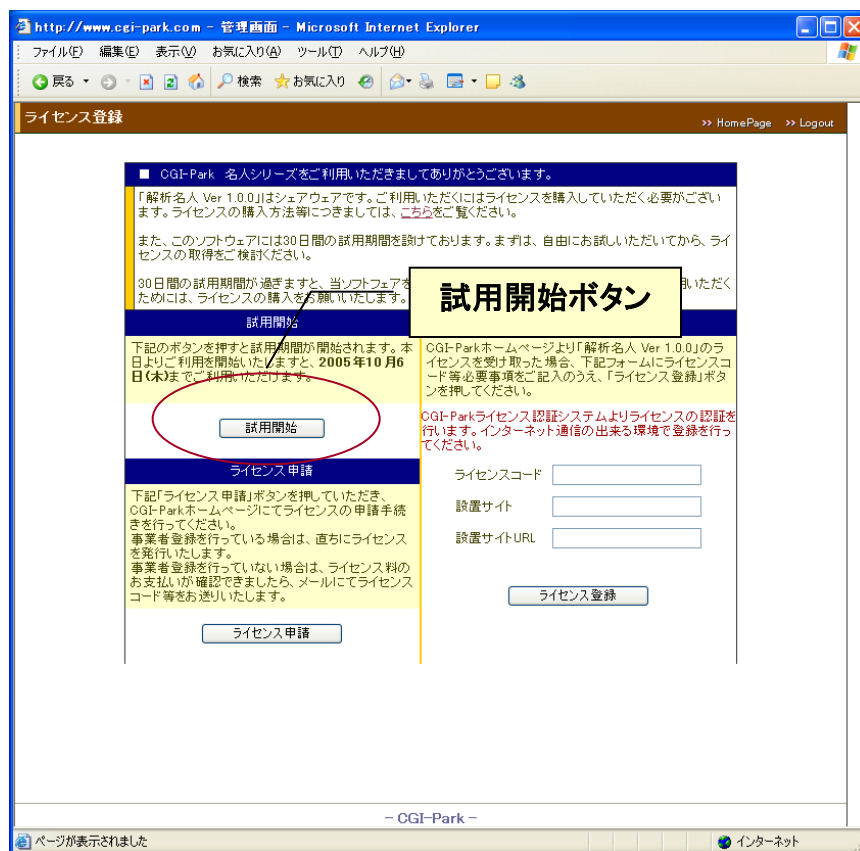
となります。今後、本ソフトの管理画面にアクセスする際は、上記URLにアクセスしてください。

また、このページをお気に入りに登録しておくことをおすすめします。

4. 管理画面の設定

4-1. 試用開始

✓ セットアップが無事完了すると下記の画面が現れます。



本ソフトは30日間の試用期間が設けられていますので、ライセンスの購入を行なう前に試用してみたい場合は、「試用開始」ボタンをクリックしてください。30日間の試用期間が与えられ、自由に操作することができるようになります。

「試用開始」ボタンを押すと「リクエストされた URL は、このサーバ上には見つかりません。」という画面になって試用期間を開始できない場合は、前項「2-4. SSL領域で本ソフトをご利用いただく場合の設定」の設定を行う必要があります。本ソフトを実行する環境がSSL領域ではなくてもお使いのサーバの仕様上この設定が必要な場合があります。

4. 管理画面の設定

4-2. システム管理者パスワードの設定

✓ システム管理者のパスワードを設定する

管理画面に最初にアクセスすると、下記のような管理者アカウントの作成画面が現れます。

本ソフトでは管理者権限を「システム管理者」と「ホームページ管理者」の2つの権限の管理者アカウントを作成することができます。

まず最初にすべての管理権限が与えられるシステム管理者のアカウントを作成します。

管理画面 - Microsoft Internet Explorer

管理画面にログインするためのユーザー名とパスワードを設定してください。
入力できる文字は半角英数字、[]、[-]、[_]のみとなっています。

ここで作成するユーザーは「システム管理者」となり、管理画面のすべての権限が与えられます。

ユーザー名 (半角英数字のみ)

パスワード (半角英数字のみ)

パスワード(再入力)

E-Mail

上記内容でよろしければ、「登録」ボタンを押してください。

登録

- CGI-Park -

インターネット

システム管理者アカウントの作成画面

ユーザー名

半角英数字で入力してください。ユーザー名は、一度登録すると変更することは出来ませんので、ご注意ください。

パスワード

半角英数字で入力してください。入力されたパスワードは暗号化されて保存されるため、パスワードを紛失してしまっても確認することが出来ません。

システム管理者のパスワードを紛失して、管理画面にアクセスできなくなると、パスワードの再発行を行なえなくなりますので、十分にご注意ください。

(HP管理者のパスワードは、システム管理者が再発行することが出来ます)

E-mail

管理者のメールアドレスの登録は、必須項目となっています。必ず入力してください。

管理者メールアドレスはシステムに異常が見つかった際の緊急連絡用に利用する場合があります。

4. 管理画面の設定

4-3. 環境設定 (1/4)

システム管理者の登録が完了すると「環境設定」画面に切り替わります。環境設定では、管理画面の動作設定やログ解析の方法等の設定が行なわれます。

環境設定画面

【システム基本情報】

- このシステムの名称
この管理画面の名称を入力してください。ここで設定された名称は管理画面の左上に表示されます。
- ホームページアドレス
本ソフトを設置したホームページのURLを入力してください。管理画面へ不正にアクセスされた場合、ここで設定されたアドレスにジャンプされます。
- 外部アクセス
「外部アクセスを遮断する」に設定した場合、正規のログインページ以外からのアクセスをブロックし管理画面への不正なアクセスを遮断することが出来ます。例えば、左側の管理メニューのリンク先をコピーし、リンク先のURLに含まれる管理画面に渡す引数を故意に変更してアクセスしてきた場合でも、その引数をシステムに渡す前にブロックすることが出来ます。

※マッキントッシュの一部のブラウザからアクセスした際、正しくアクセスしているのに、稀に外部アクセスとみなされて遮断してしまう場合があります。その場合、「許可する」にチェックを付け、この機能をオフにしてください。

4. 管理画面の設定

システム管理者マニュアル Ver1.3

4-3. 環境設定 (2/4)

【初期設定】

- **初期アクセスメニュー**
管理画面にアクセスした際に最初に表示する画面を設定してください。
設定方法は「メニュー管理」で登録されているリンク先を記入してください。
初期設定では「日別アクセス」が最初の画面になるように設定されています。
- **Sendmailのパス**
サーバのSendmailまでのパスを指定してください。通常は「/usr/sbin/sendmail」か
「/usr/lib/sendmail」が一般的です。不明な場合は、サーバー管理者にご確認ください。
- **メール送信エラーの通知先アドレス**
システムから送信したメールが宛先不明で送信できなかった際の、配信エラーメールを受信するアドレスを設定してください。
(この設定はSendmailの-fオプションとして設定されます。もし、fオプションを許可していないサーバの場合は何も設定しないでください。)
- **親フレーム名**
管理画面を呼び出しているフレームのフレーム名を指定してください。デフォルトは「admin」です。
管理画面メインプログラム「admin.cgi」を呼び出す際のフレームページ(index.html)のフレーム名になります。
- **左フレーム幅**
管理画面の左メニューのフレーム幅を設定してください。デフォルトでは150ピクセルになっています。
- **右フレーム幅**
管理画面の右メニューのフレーム幅を設定してください。デフォルトでは600ピクセルになっています。
- **管理画面のクッキー保存期間(日)**
管理画面のクッキーの保存期間を設定してください。単位は日です。
デフォルトでは10日間となっています。この日数より間を空けてアクセスすると再度ログインを求められます。
- **ログ管理番号の初期値**
ログデータの管理番号の初期値を設定します。半角英数字のみ使用可。ログデータの管理番号は作成される詳細ページのファイル名となります。
例:p0001 → ファイル名 p0001.html
- **カテゴリ管理番号の初期値**
カテゴリデータの管理番号の初期値を設定します。半角英数字のみ使用可。カテゴリデータの管理番号はカテゴリ一覧ページのファイル名に利用されます。
例:ca0001 → ファイル名 ca0001.html

4. 管理画面の設定

4-3. 環境設定 (3/4)

【表示設定】

- 一覧表示の際の並び順
管理画面の「登録情報一覧」や、ホームページ上での一覧表示などの際の登録データの表示順序を設定してください。
「任意設定」を選択すると登録情報一覧画面で「↑↓」ボタンで調整できるようになります。
ここでの設定は、各種一覧ページや検索結果ページなどすべてのページで適用されます。
- 1ページでのログ表示件数
管理画面上の一覧表示や検索結果の一覧表示の際の1ページの表示件数を設定します。
何も設定しない場合は、登録されているすべてのデータが表示されます。
- 公開画面の日付表示方法
登録日時や最終更新日などの日付を表示する際の表示方法を指定してください。

■ 表示設定		変更
一覧表示の際の並び順 任意設定 ▼	管理画面の「登録情報一覧」や、ホームページ上での一覧表示などの際の登録データの表示順序を設定してください。 「任意設定」を選択すると登録情報一覧画面で「↑↓」ボタンで調整できるようになります。	
1ページでのログ表示件数 1	管理画面やホームページ上の一覧表示の際の1ページの表示件数を設定します。 何も設定しない場合は、登録されているすべてのデータが表示されます。	
公開画面の日付表示方法 2005年2月30日(月) ▼	登録日時や最終更新日などの日付を表示する際の表示方法を指定してください。	

■ インデックス設定		変更
インデックス表示用の設定を行います。 インデックス表示とは、最新の更新情報やピックアップしたい情報をトップページなどに取り出して表示することをいいます。 インデックス表示部分は既存のHTMLファイルに埋め込む形で書き出されます。		
インデックス表示用ページのパス ../item/sample.htm	admin.cgiからみたインデックス表示用ページまでのパスを設定してください。省略するとインデックス書き出しを行いません。 例: インデックス表示用ページが [/web/index.htm] で、admin.cgiが [/web/kousin/cgi/admin.cgi] にある場合、[/../index.htm] と指定します。	
インデックス表示用区切文字 <!-- index -->	インデックス表示を行なう際に、表示する箇所を特定するための区切り文字を設定してください。 区切り文字はHTMLのコメントタグを使い、表示部分のHTMLの先頭と終わりに埋め込んでください。 1ページに必ず2箇所はいいないとインデックスの書き出しが正常に行なわれません。	

【インデックス設定】

インデックス表示とは、最新の更新情報やピックアップしたい情報をトップページなどに取り出して表示することをいいます。
インデックス表示部分は既存のHTMLファイルに埋め込む形で書き出されます。
インデックス表示を行なう際は、下記の設定を必ず行なってください。

- インデックス表示用ページのパス
admin.cgiからみたインデックス表示用ページまでのパスを設定してください。省略するとインデックス書き出しを行ないません。
例: インデックス表示用ページが
 /web/index.html
で、admin.cgiが
 /web/seisaku/cgi/admin.cgi
にある場合、インデックス表示用ページのパスは
 ../../index.html
と指定します。
- インデックス表示用区切文字
インデックス表示を行なう際に、表示する箇所を特定するための区切り文字を設定してください。
区切り文字はHTMLのコメントタグを使い、表示部分のHTMLの先頭と終わりに埋め込んでください。
1ページに必ず2箇所はいいないとインデックスの書き出しが正常に行なわれません。

4. 管理画面の設定

システム管理者マニュアル Ver1.3

4-3. 環境設定 (4/4)

【画像設定】

アップロードする画像に関する設定を行ないます。

- **写真がない場合の代替画像**
アップロードする画像がない場合の代替画像を指定してください。
画像は「アップロード画像格納フォルダ」に入れてください。
デフォルトでは「seisaku/photo/」になります。
- **画像リサイズ機能**
アップロードした画像に対して、指定した画像サイズにリサイズを行いたい場合は、「利用する」にチェックを付けてください。
※この機能を利用するには、サーバーにImageMagickおよび、PerlMagickがインストールされている必要があります。
ご不明な場合は、サーバー管理者にご確認ください。

■ 画像設定		変更
アップロードする画像に関する設定を行ないます。		
写真がない場合の代替画像 spacer.gif	アップロードする画像がない場合の代替画像を指定してください。画像は「アップロード画像格納フォルダ」に入れてください。	
画像リサイズ機能 ☒ 利用する ☐ 利用しない	アップロードした画像に対して、指定したサイズにリサイズを行いたい場合は、「利用する」にチェックを付けてください。 ※この機能を利用するには、サーバーにImageMagickおよび、PerlMagickがインストールされている必要があります。 ご不明な場合は、サーバー管理者にご確認ください。	

■ 公開ページ設定		変更
作成したデータをホームページ上に公開する際の各種設定を行ないます。 公開するフォルダは任意で設定することが出来ます。		
公開用HTMLファイルの拡張子 html	HTML書き出しを行なう際に作成されるHTMLファイルの拡張子を指定してください。ドット[.]は付けなくてください。 例)html, htm, shtml	
カテゴリにデータが登録されていない場合のHTML作成処理 ☒ 作成する ☐ 作成しない	作成したカテゴリにデータが登録されていない場合、メニューのカテゴリリストと、カテゴリ別一覧のHTMLファイルを作成するか指定してください。 「作成する」を選択した場合、「現在データは登録されていません」というメッセージが入ったHTMLファイルを作成します。	
登録データ全一覧の作成 ☒ 作成する ☐ 作成しない	登録されているデータを1ページに集めた「登録データ一覧」のページを作成する場合は、「作成する」を選択してください。	
全一覧ページのファイル名 index.html	登録データ全一覧ページを作成する場合のページのファイル名を指定してください。 例) index.html	
カテゴリメニューの埋め込み方法 ☒ SSI ☐ HTML	カテゴリメニューのページに埋め込む際の埋め込み方法を選択してください。 通常、サーバーでSSIを許可している場合は、SSIを選択してください。	

【公開ページ設定】

作成したデータをホームページ上に公開する際の設定を行ないます。この設定を正しく行なわないと、公開ページが作成されません。

- **公開用HTMLファイルの拡張子**
HTML書き出しを行なう際に作成されるHTMLファイルの拡張子を指定してください。
ドット[.]は付けなくてください
例)html, htm, shtml
- **カテゴリにデータが登録されていない場合のHTML作成処理**
作成したカテゴリにデータが登録されていない場合、メニューのカテゴリリストと、カテゴリ別一覧のHTMLファイルを作成するか指定してください。
「作成する」を選択した場合、「現在データは登録されていません」というメッセージが入ったHTMLファイルを作成します。
- **登録データ全一覧の作成**
登録されているデータを1ページに集めた「登録データ一覧」のページを作成する場合は、「作成する」を選択してください。
- **全一覧ページのファイル名**
登録データ全一覧ページを作成する場合のページのファイル名を指定してください。
例) index.html
- **カテゴリメニューの埋め込み方法**
カテゴリメニューのページに埋め込む際の埋め込み方法を選択してください。
通常、サーバーでSSIを許可している場合は、SSIを選択してください。

4. 管理画面の設定

システム管理者マニュアル Ver1.3

4-4. フォルダ位置の設定 (1/2)

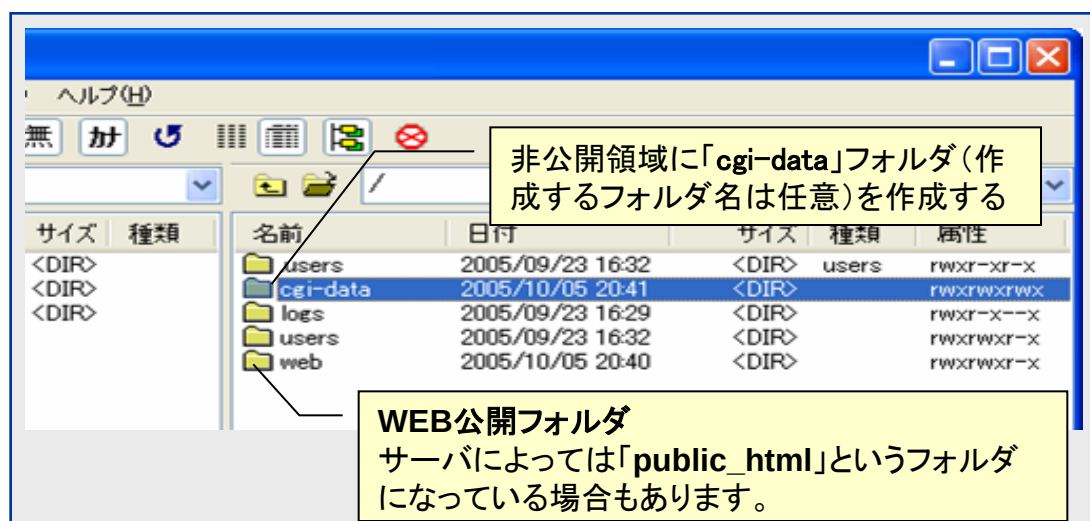
本ソフトをセットアップした最初状態では、ログファイルの格納フォルダなどがブラウザから直接アクセスすることの出来る「WEB公開領域」におかれています。そのままにしておくと悪意のある第三者から不正にアクセスされ、ログファイルの中身を盗み見られてしまう可能性が出てきます。

そのような危険な状態を回避するためにも、セットアップ後は必ずフォルダの移動を行なう必要があります。

下記の例を参考にログファイル格納フォルダを適切な位置に移動してください。

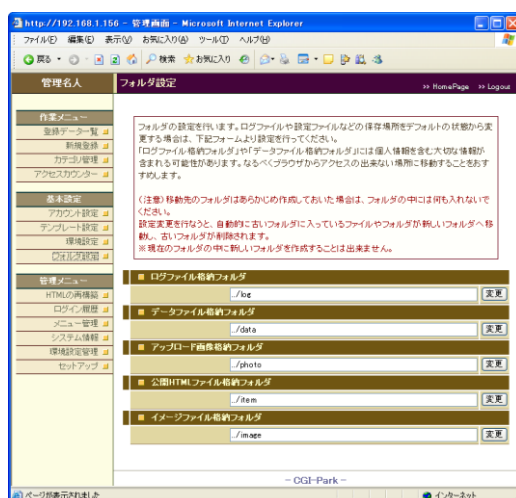
1. 非公開フォルダの作成

まず、「web」フォルダをWEB公開フォルダと仮定するとそれと同じ階層に「cgi-data」フォルダ(フォルダ名は任意)をFTPソフト等を使って作成します。



2. 管理画面での操作

管理画面の左側のメニューより「フォルダ設定」をクリックする。



本ソフトでは下記のフォルダが設定可能フォルダとなっています。

【ログファイル格納フォルダ】

システムが生成したログファイルや設定ファイルが格納されています。

【データファイル格納フォルダ】

システムで使用する各種設定ファイル等が格納されています。

【アップロード画像格納フォルダ】

本ソフトでアップロードした画像が格納されます。

【公開HTMLファイル格納フォルダ】

登録した情報を公開する一覧ページや詳細ページなどのHTMLファイルが格納されます。

4. 管理画面の設定

4-4. フォルダ位置の設定 (2/2)

本ソフトを設置したフォルダが「/web/cgi-bin/seisaku/」フォルダとすると、管理画面のメインCGIファイルは「/web/cgi-bin/seisaku/cgi/admin.cgi」にあり、ここから見た、新しいフォルダまでの相対パスを指定して、「変更」ボタンを押すことで、フォルダとその中に格納されているファイルが移動します。

先ほど「/cgi-data」フォルダを作成したので、そこに「ログファイル格納フォルダ」を移動する場合、移動先のフォルダ名を「seisaku_log」とすると、

移動前の位置 [/web/cgi-data/seisaku/log]



移動後の位置 [/cgi-dta/seisaku_log/]

という移動を行なうので、新しいフォルダまでのパスは

[../../../../cgi-data/seisaku_log]

となります。

変更処理が正常に完了すると、変更前のログファイル格納フォルダ「/web/cgi-bin/seisaku/log/」がなくなり、その中に入っていたフォルダやファイルはすべて「/cgi-data/seisaku_log/」の中に移動します。

(注意事項)

- ・移動先のフォルダはあらかじめ作成しておいた場合 (seisaku_logフォルダをあらかじめ作っておいた場合) は、フォルダの中には何も入れないでください。万が一ファイル等が入っていた場合は、エラーとなり移動処理が行なえません。

- ・上記例の場合、[seisaku_log]フォルダは作成しておく必要はありませんが、[cgi-data]フォルダは事前に作成しておく必要があります。移動先のフォルダがない場合は移動処理が行なえません。

- ・現在のフォルダの中に新しいフォルダを作成して、そこに移動することは出来ません。

例) 移動前 /web/cgi-bin/seisaku/log/



移動後 /web/cgi-bin/seisaku/log/new_log/

✓ 公開HTMLファイル格納フォルダの位置を決定する

「公開HTMLファイル格納フォルダ」の設定は、登録した情報を表示する、一覧ページや詳細ページなどのURLとして反映されます。たとえば「cgi-sample.com」というサイトで業務実績として利用する場合は、業務実績の一覧ページを

<http://www.cgi-sample.com/job/index.html>

にしたいとすると、公開HTMLファイル格納フォルダの設定は

[../../../job](#)

となります。

公開HTMLファイル格納フォルダは一般に公開されるフォルダとなるため設置場所には十分ご注意ください。

4. 管理画面の設定

システム管理者マニュアル Ver1.3

4-5. 管理者アカウントの設定 (1/2)

✓ 管理者アカウントについて

本ソフトでは、管理画面にアクセスする管理者を「システム管理者」と「ホームページ管理者」の二つの管理権限に分けて、管理しています。

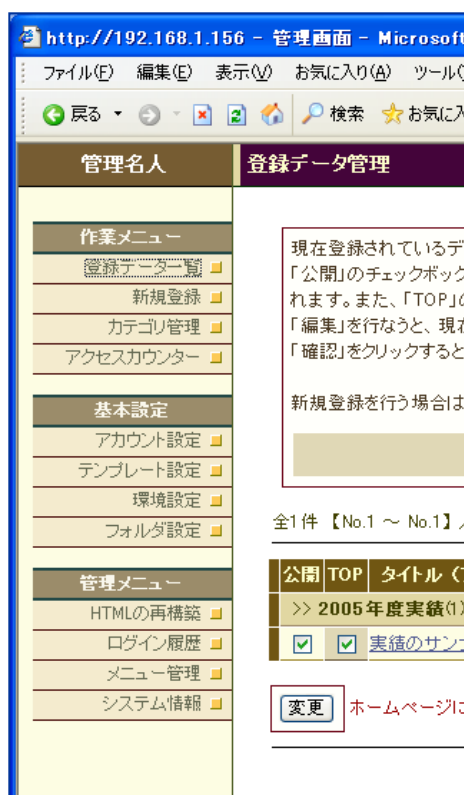
➤ システム管理者

本ソフトを設置した方や、管理画面全般を管理する方で、本ソフトを実際に利用することが出来るように、設置するホームページに合わせた調整を行なったり、製品のバージョンアップを行なったりと、管理画面に対してすべてのアクセス権限を持っている管理者です。

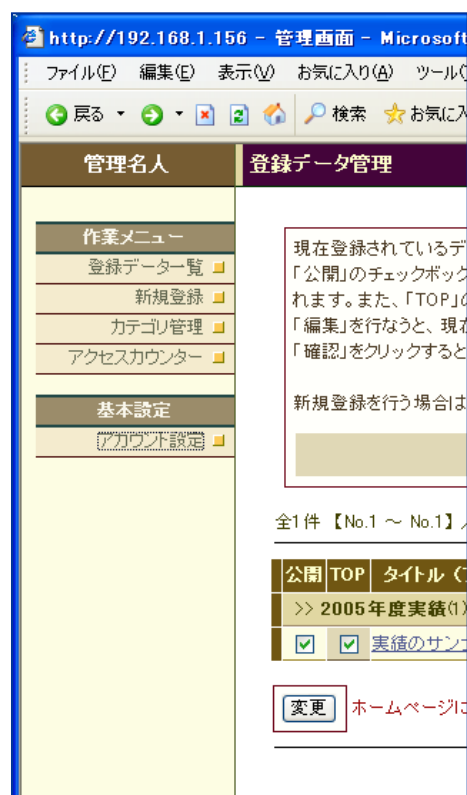
➤ ホームページ管理者

本ソフトを設置した後に実際に管理画面を利用する方で、管理者アカウントの作成や、フォルダの移動といった設定作業を行なわず、通常の業務のみを行なう管理者となります。

ホームページ管理者には一部の管理メニューのみが表示され、設定関係のメニューは表示されなくなり、すっきりとした管理画面になります。



システム管理者の管理画面



ホームページ管理者の管理画面

4. 管理画面の設定

システム管理者マニュアル Ver1.3

4-5. 管理者アカウントの設定 (2/2)

✓ 管理者アカウントを作成する

管理者アカウントの新規作成を行なうことができるのは、「システム管理者」のみとなります。もし、「ホームページ管理者」でログインしている場合は、システム管理者としてログインしなおしてください。

まず、管理メニューより「アカウント設定」をクリックしてください。

管理画面に登録されている管理者アカウントの一覧が表示されます。

新たに管理者アカウントを追加する場合は、「アカウントの新規作成」ボタンをクリックしてください。

管理者アカウントの登録フォームが現れるので、必要事項を記入して、「登録」ボタンを押してください。

これで、新しい管理者アカウントの登録が完了です。

管理画面にログインするためのユーザーアカウントの一覧です。ユーザーアカウントの管理はシステム管理者のみが行えます。
新たなアカウントを作成するには下記のボタンより操作を行ないます。

新規作成ボタンをクリック

(注意)一つのアカウントで複数の管理者が利用するとセキュリティ上のリスクがあります。なるべく管理者ごとに個別のアカウントを作成してください。登録するアカウントには制限はありません。

ユーザー名	メールアドレス	権限	処理
admin	info@cgi-park.com	システム管理者	変更
user	info2@cgi-park.com	HP管理者	変更・削除

アカウントの新規作成

管理画面にログインするためのユーザー名とパスワードを設定してください。
入力できる文字は半角英数字、[.][_][~][]のみとなっています。

アクセス権を「システム管理者」にするとそのユーザーには管理画面のすべてのアクセス権限が与えられます。
また、「HP管理者」にすると日々の業務に必要なメニューのみアクセスできるようになります。

ユーザー名: admin (半角英数字のみ)
パスワード: (半角英数字のみ)
パスワード(再入力):
E-Mail: info@cgi-park.com
アクセス権限: ☒ システム管理者 ☐ HP管理者

上記内容でよろしければ、「登録」ボタンを押してください。

登録

HP管理者 ホームページ管理者は実際のサイトオーナーやWEB担当者など、この管理画面を利用して日々作業を行なう方となります。ホームページ管理者には、日々の業務に必要なメニューのみアクセスできるようになります。

システム管理者 システム管理者はホームページ制作業者やシステム管理者など、このシステムを設置・管理する方となります。システム管理者は、この管理画面で操作できるメニューのすべてのアクセス権限を持ちます。

ユーザー名

半角英数字で入力してください。ユーザー名は、一度登録すると変更することは出来ませんので、ご注意ください。

パスワード

半角英数字で入力してください。入力されたパスワードは暗号化されて保存されるため、パスワードを紛失してしまっても確認することが出来ません。

E-mail

管理者のメールアドレスの登録は、必須項目となっています。必ず入力してください。

管理者メールアドレスはシステムに異常が見つかった際の緊急連絡用に利用する場合があります。

アクセス権限

「システム管理者」または、「HP管理者」のどちらの権限でアカウントを作成するか選択してください。

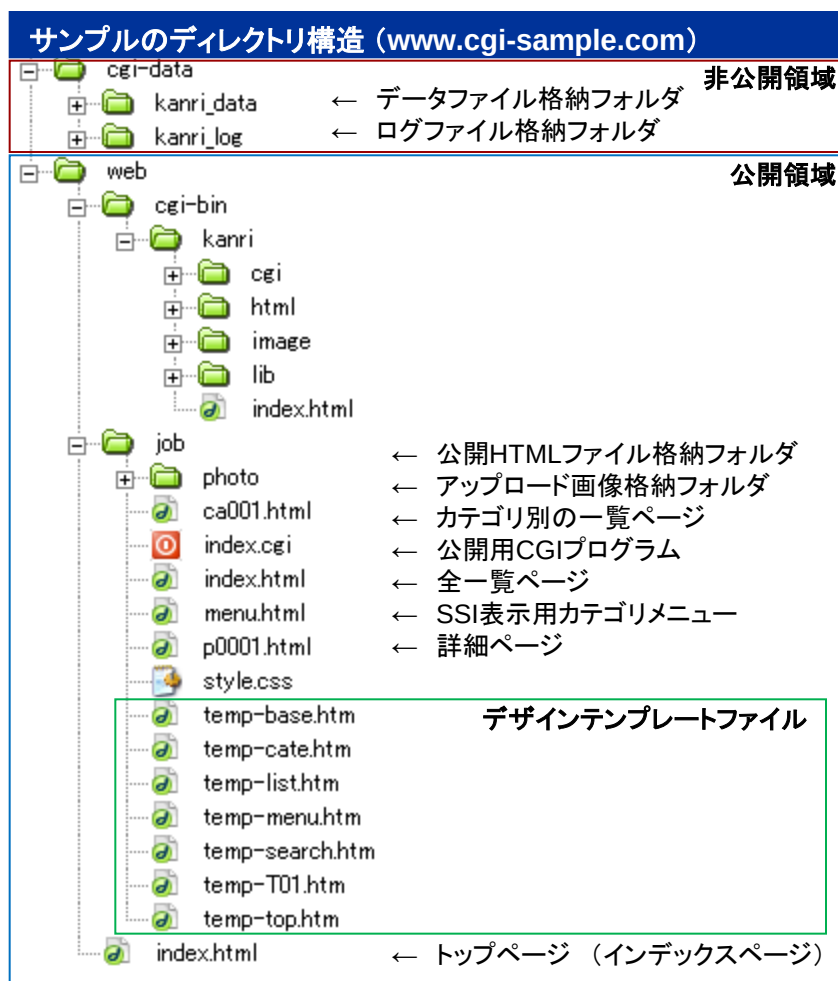
5. コンテンツ登録のための設定手順と作業概要

システム管理者マニュアル Ver1.3

5-1. 作業にかかる前の準備

管理画面の設定が一通り完了したら、本ソフトのメイン部分であるコンテンツ登録のための設定準備を行ないます。

本マニュアルでは、初期状態で設定されているサンプルの実績紹介を元に説明します。また、下記のようなフォルダ構成で設置することを前提に説明を行ないます。



「4-4. フォルダ位置の設定」で図1のようなディレクトリ構造にするため、図2のようにフォルダの位置を設定します。

設定が完了したら、「公開HTMLファイル格納フォルダ」である、jobフォルダ以下をすべてFTPでダウンロードしておきます。

この公開HTMLファイル格納フォルダの中に、デザインテンプレートファイルや公開用CGIプログラムが格納されています。

図1: サンプルのディレクトリ構造

The form is used to configure the locations of various folders. It contains four sections, each with a text input field and a '変更' (Change) button.

- ログファイル格納フォルダ:** Path: ../../../../cgi-data/kanri_log
- データファイル格納フォルダ:** Path: ../../../../cgi-data/kanri_data
- アップロード画像格納フォルダ:** Path: ../../../../job/photo
- 公開HTMLファイル格納フォルダ:** Path: ../../../../job

図2: フォルダ位置の設定

5-2. 設定手順の概要

デザインテンプレートの作成等の作業手順は、以下の要領で行なっていきます。

1. **デザインテンプレートの作成に必要なフォルダのダウンロード**
セットアップした本ソフトの内「公開HTMLファイル格納フォルダ」以下をFTPですべてダウンロードします。
このフォルダの中に、デザインテンプレートファイル等が格納されています。
2. **コンテンツの入力項目を決定する**
たとえば業務実績として利用する場合は、「タイトル」「実施概要」「担当者コメント」「写真1, 2, 3+写真タイトル」といったような入力項目が必要になります。
その必要な入力項目を管理メニューの「テンプレート設定」より設定を行なっていきます。
3. **公開ページのデザインを作成する**
利用する入力項目が決定したら、それを元にデザインを起こして行きます。作成するデザインは「全一覧、カテゴリ別一覧、検索結果一覧、インデックス表示、カテゴリメニュー、詳細ページ」となり、その中から必要なページを作成します。
4. **デザインテンプレートの作成**
作成したデザインを元に本ソフト独自のルールに従ってデザインテンプレートを作成していきます。
デザインテンプレートの作成も基本的には既存のWEB制作ソフトで行なえます。
5. **公開用CGIプログラムの設定と動作確認**
デザインテンプレートの作成が完了したら、それが正しく設定されているか検証を行ないます。

6. テンプレートの設定

システム管理者マニュアル Ver1.3

6-1. テンプレートの設定について

テンプレート設定では、コンテンツを入力する際に利用する入力フォームと、それを表示するためのHTMLデザインを作成し、登録して行きます。

デザインテンプレートは複数登録しておくことが出来、利用目的に応じて複数のテンプレートを使い分けることが出来ます。

たとえば、写真をたくさん登録したい時や、1枚登録すれば十分な時があります。また、カテゴリ毎にまったく別のデザインで詳細ページを表示させたい場合もあります。そのような場合でもあらかじめ対応するテンプレートを用意しておけば、柔軟に使い分けることが出来ます。

テンプレートで利用できる入力項目は以下のとおりです。

- タイトル(必須) × 1
- 検索用ふりがな × 1
- カテゴリ(必須) × 1
- 一行テキスト × 5
- 複数行テキスト × 5
- サムネイル写真 × 1
- 写真 × 5
- 写真タイトル(一行テキスト) × 5
- 写真説明文(複数行テキスト) × 5

✓ テンプレートの新規作成

テンプレートを作成する場合は、管理メニューの「テンプレート管理」より「新規登録」をクリックします。(図1)

- **テンプレート名**
データの入力を行なう際に、テンプレートの選択を行う場合に表示されます。(テンプレートが複数登録されている場合)
- **説明文**
説明文は、図2のように、データの入力時に入力フォームの上部に表示されます。このテンプレートを利用してデータ入力を行なう際の注意事項を記入してください。

図1: テンプレートの新規登録画面

図2: 入力フォーム

6-2. 入力フォームの項目設定 (1/2)

入力フォームの項目設定では、コンテンツの登録を行なう際に使用する入力フォームの設定を行ないます。

>> 新規登録

テンプレート名	利用件数	基本設定	入力フォーム	HTML編集	削除
業務実績(サンプル)	1件	基本設定	入力フォーム	HTML編集	

入力フォームの項目設定を行なうには、テンプレート一覧より「入力フォーム」をクリックしてください。

■ 業務実績(サンプル)の入力フォームの項目設定

業務実績(サンプル)の入力フォームの項目設定を行います。
業務実績(サンプル)で利用する入力フォームは必ずここで登録・設定してください。登録漏れがある場合は、フォームで入力された内容が受信されず、ログファイルにも記録されません。
項目の順序を変更する場合は「↑↓」ボタンをクリックして調整してください。

↓変更

※マークが付いている項目は入力必須の項目です。

使用	項目名称	変換キー	フォームの種類	順序	詳細設定
☒	タイトル *	#title#	一行テキスト	↓	詳細設定
☐	検索用ふりがな	#kana#	一行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☒	カテゴリ *	#cate#	カテゴリ選択	↑ ↓	詳細設定
☒	ホームページ	#text1#	一行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☐	テキスト2	#text2#	一行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☐	テキスト3	#text3#	一行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☐	テキスト4	#text4#	一行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☐	テキスト5	#text5#	一行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☒	実績概要 *	#com1#	複数行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☒	実績詳細 *	#com2#	複数行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☐	解説3	#com3#	複数行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☐	解説4	#com4#	複数行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☐	解説5	#com5#	複数行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☒	サムネイル画像	#photo0#	画像アップロード	↑ ↓	詳細設定
☒	メイン画像	#photo1#	画像アップロード	↑ ↓	詳細設定
☒	メイン画像のタイトル	#title1#	一行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☒	メイン画像の説明	#p_msg1#	複数行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☐	写真2	#photo2#	画像アップロード	↑ ↓	詳細設定
☐	写真2タイトル	#title2#	一行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☐	写真2説明	#p_msg2#	複数行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☐	写真3	#photo3#	画像アップロード	↑ ↓	詳細設定
☐	写真3タイトル	#title3#	一行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☐	写真3説明	#p_msg3#	複数行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☐	写真4	#photo4#	画像アップロード	↑ ↓	詳細設定
☐	写真4タイトル	#title4#	一行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☐	写真4説明	#p_msg4#	複数行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☐	写真5	#photo5#	画像アップロード	↑ ↓	詳細設定
☐	写真5タイトル	#title5#	一行テキスト	↑ ↓	詳細設定
☐	写真5説明	#p_msg5#	複数行テキスト	↑	詳細設定

業務実績登録のサンプルフォームです。
画像はサムネイル用画像(120×90ピクセル)とメイン画像(280×210ピクセル)の2枚をあらかじめ用意しておいてください。

下記フォームに必要事項を記入し、確認画面に進んでください。

タイトル *

タイトルを入力してください。

カテゴリ *

2005年度実績

ホームページ

実績概要 *

一覧表示の際に表示される実績概要になります。
50文字程度で簡潔に記述してください。

実績詳細 *

サムネイル画像

参照...

一覧表示で表示するサムネイル画像を登録してください。
画像サイズは「120×90」にしてください。

メイン画像

参照...

280×210ピクセルの画像を登録してください。

メイン画像のタイトル

メイン画像の説明

確認画面へ

入力項目の順序を変更するには、「↑↓」をクリックして位置を調整してください。
ここで表示されている順に入力フォームが作成されます。

設定された入力項目はこのようにコンテンツの入力フォームとして反映されます。

27

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

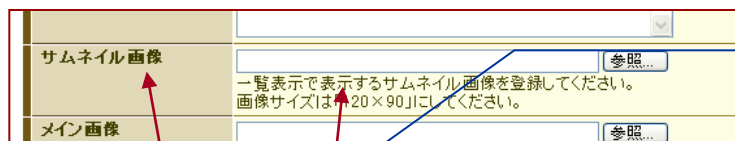
CGI-Park

6. テンプレートの設定

システム管理者マニュアル Ver1.3

6-2. 入力フォームの項目設定 (2/2)

入力項目の設定で「詳細設定」をクリックすると図1の画面が表示されます。各入力項目に対して、項目名や入力値の条件などが設定できます。



サムネイル画像
参照...

メイン画像
参照...

一覧表示で表示するサムネイル画像を登録してください。
画像サイズは「20×90」にしてください。

作成された入力フォーム

項目名称※	サムネイル画像
フォームの種類	画像アップロード
画像のリサイズ	記入例) 200×150ピクセルにする場合: 「200*150」 画像のリサイズを行う場合は、リサイズする大きさを指定してください。 何も入力しないと、リサイズは行なわれません。
フォームサイズ	1行テキストボックスまたは、複数行テキストボックスの場合、フォームのサイズを指定できます。 例1) 1行テキストの場合で、カラム数を40に設定したい場合は「40」と入力 例2) 複数行テキストで、カラム数を30、行数を5としたい場合は「30-5」と入力 何も入力しないと、規定のサイズで表示されます。
補足説明 (このフォームを使 っての入力の際の 注意事項を記入し てください。)	一覧表示で表示するサムネイル画像を登録してくだ さい。 画像サイズは「120×90」にしてください。
フォームの利用	☒ 利用する
入力値条件	☐ 必須項目 ☐ 半角数字のみ ☐ 全角数字のみ ☐ 半角アルファベットのみ ☐ 全角アルファベットのみ ☐ 半角英数のみ ☐ 全角英数のみ ☐ メールアドレス ☐ ファイル名(半角英数 [@] [.] [-] [_]) ☐ ハイフンなしの電話番号(半角) ☐ ハイフンありの電話番号(半角) ☐ ハイフンなしの郵便番号(半角) ☐ ハイフンありの郵便番号(半角) ☐ 全角ひらがなのみ ☐ 全角カタカナのみ
変換ルール	☐ 全角数字と全角ハイフンを半角に変換 ☐ 半角数字と半角ハイフンを全角に変換 ☐ 全角・半角ハイフンを削除 ☐ 全角アルファベットを半角に変換 ☐ 半角アルファベットを全角に変換 ☐ 半角カナを全角カナに変換 ☐ メールアドレスを半角に変換

図1: 入力項目の詳細設定

項目名称は、入力項目の名称になります。入力を行なう際に分かりやすい名称を設定してください。

画像のリサイズは、画像のリサイズ機能を有効にしている場合で、フォームの種類が「画像アップロード」の場合に表示されます。画像のリサイズ機能を利用する場合は、変換したい画像のサイズを設定してください。
記入例) 200×150ピクセルに変換したい場合は、「200*150」と設定します。

1行テキストボックスまたは、複数行テキストボックスの場合、フォームのサイズを指定できます。1行テキストの場合、カラム数を40に設定したい場合は「40」と入力します。複数行テキストの場合、カラム数を30、行数を5としたい場合は「30-5」と入力します。何も入力しないと、規定のサイズで表示されます。

補足説明は、入力フォームの下に表示されます。入力する際の注意事項や説明文などを記入してください。

この入力項目を利用する場合は、チェックを付けてください。入力値条件で「必須項目」としている場合は利用は必須になります。

変換ルールは、入力された値を指定された条件で変換する機能で、「全角数字と全角ハイフンを半角に変換」という変換ルールでは、全角の数字とハイフンをすべて半角に変換します。電話番号や郵便番号をすべて半角で登録したい場合などに利用します。

入力値条件とは、フォームから入力される内容に一定の条件を与えるもので、条件に一致しない内容が入力された場合エラーメッセージを表示するようになります。

7. デザインテンプレートを作成する

システム管理者マニュアル Ver1.3

7-1. コンテンツのデザインを作成する上での基本ルール

コンテンツのデザインは最大で下記の6種類必要になります。利用する状況に応じて必要なページのデザインを作成してください。

1. 基本フレームのデザイン (temp-base.htm)
ページのヘッダー、フッター、ナビゲーションを含むデザインで図1のAの部分に該当します。
2. 全一覧ページ (temp-list.htm)
登録したすべてのコンテンツの一覧ページになります。
3. カテゴリ別一覧ページ (temp-cate.htm)
カテゴリ毎の一覧ページで、登録したカテゴリの数だけ作成されます。
4. 検索結果一覧ページ (temp-search.htm)
キーワード検索を行なった際に表示するページデザインです。
5. 詳細ページ (temp-T**.htm)
登録したコンテンツの詳細ページです。
6. インデックス表示 (temp-top.htm)
トップページなどにピックアップしたものを表示します。
7. カテゴリメニュー (temp-menu.htm)
カテゴリ別一覧にアクセスするためのメニューのデザインです。

作成するデザインの内、上記の2～5に関しては、図1のBの部分を作成します。1のAの部分に関しては2～5で同じデザインが使用され、Bの部分だけが入れ替わるようになります。そのため、2～5それぞれでAの部分が変わるようなデザインを作成することは出来ません。また、図3のようにBが2箇所に分かれたり、一つのテーブルで構成できないようなデザインにすることも出来ません。

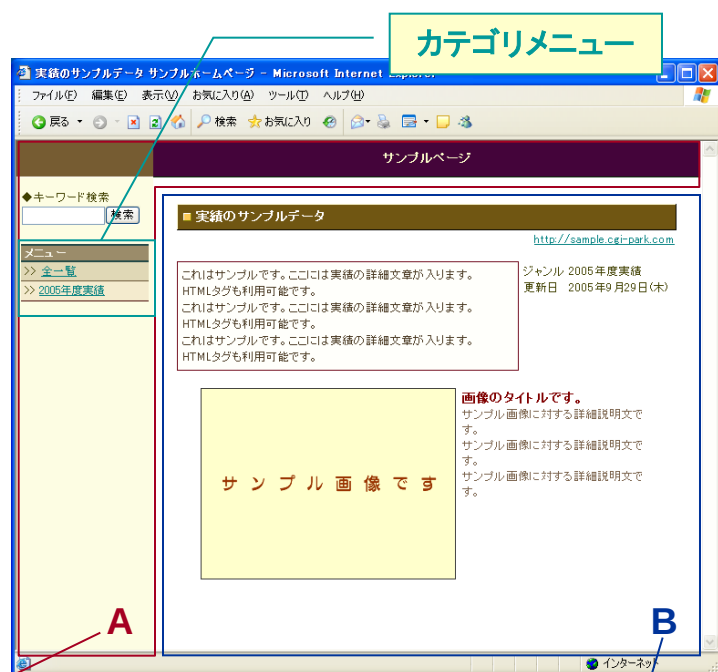


図1: デザイン構成例

基本フレーム
のデザイン

各ページ
のデザイン

図2: 作成可能なデザイン構成

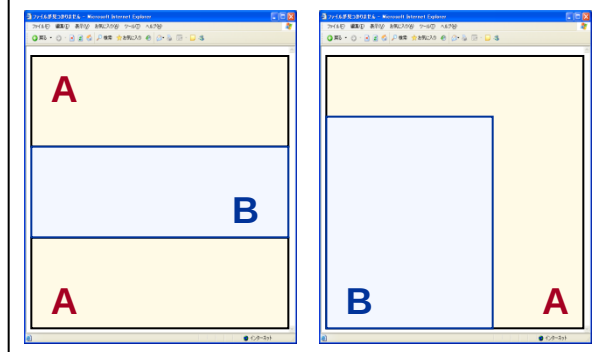
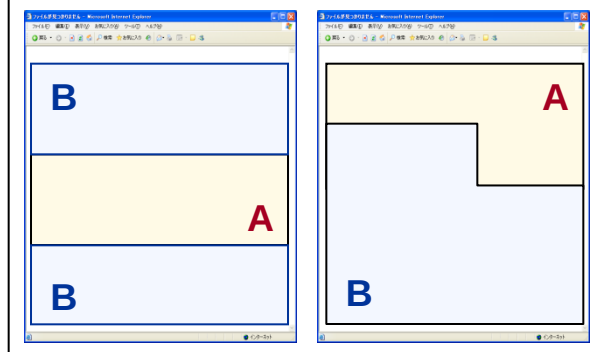


図3: 作成不可能なデザイン構成



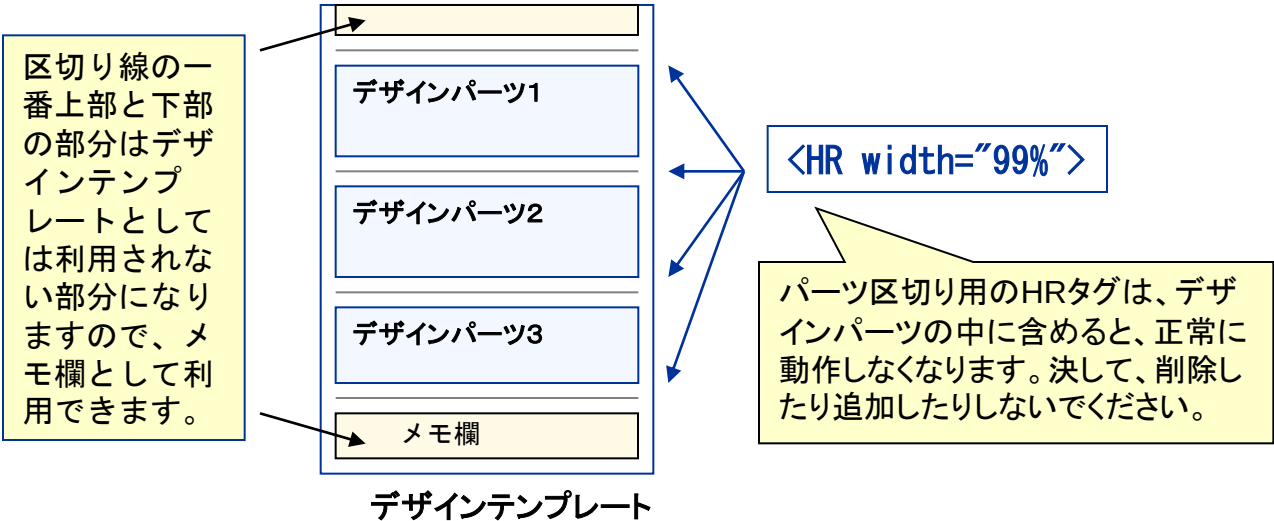
7. デザインテンプレートを作成する

システム管理者マニュアル Ver1.3

7-2. デザインテンプレートを作成する上での基本ルール (1/2)

デザインテンプレートを作成するには本ソフト独自の基本ルールがあります。この基本ルールは、基本的に他の当社製品と互換性があり、一度覚えると他のソフトでのデザインテンプレートの作成時にも応用できます。

- ✓ **デザインパーツの切り分け**
一つのデザインテンプレートファイルには複数のデザインパーツが含まれている場合があります、それぞれを切り分けるために下記のように区切り線 (HRタグ) が利用されています。

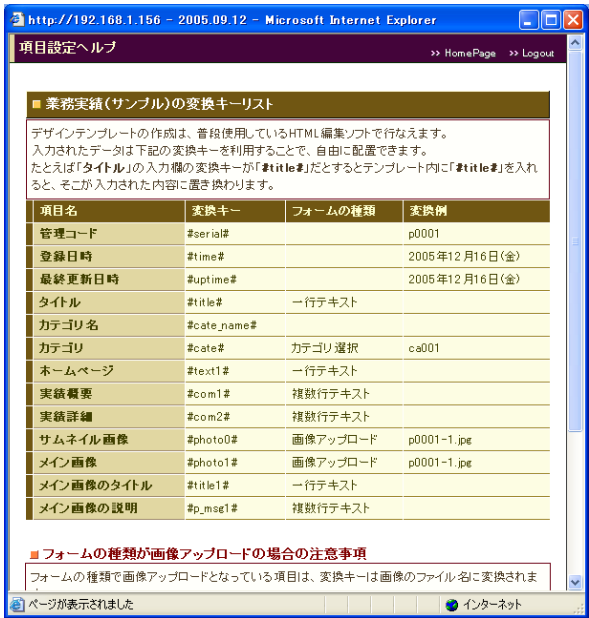
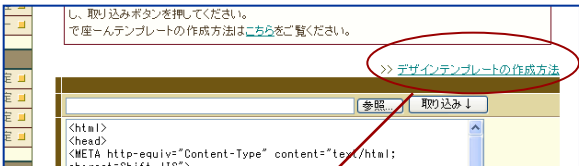


- ✓ **変換キー**
入力されたコンテンツの内容をテンプレートに埋め込むためには「変換キー」という特殊な記号が利用されます。
たとえば、テンプレート内にタイトルを表示させたいとすると、タイトル用の変換キー「#title#」を表示させたい箇所に埋め込みます。実際に表示されるときにこの変換キーがタイトルに置き換わって表示されます。変換キーはFONTタグや、Aタグなどを使って自由にデザインできます。

利用できる変換キーは、テンプレート設定の「HTML編集」をクリックすると、「デザインテンプレートの作成方法」というリンクがあります。ここをクリックすると、利用可能な変換キーリストが表示されます。

- ✓ **カテゴリ用変換キー**
カテゴリ名や登録件数を表示するための変換キーは下記のとおりです。

項目名	変換キー
カテゴリ名	#cate_name#
カテゴリコード	#cat#
登録件数	#num#



変換キーリスト

7. デザインテンプレートを作成する

7-2. デザインテンプレートを作成する上での基本ルール (2/2)

✓ 詳細ページやカテゴリ別一覧ページへのリンク

詳細ページやカテゴリ別の一覧ページは、本ソフトで自動生成されるページで、詳細ページはログの管理番号が、カテゴリ別一覧ページはカテゴリ管理番号がページのファイル名となります。

たとえば環境設定でログ管理番号の初期値を「p0001」とし、公開用HTMLファイルの拡張子を「html」とした場合、作成される詳細ページは、p0001.html、p0002.html、p0003.html・・・というようにファイル名が付いて行きます。

同様にカテゴリ別一覧ページの場合も、ca001.html、ca002.html、ca003.html・・・となっていきます。

デザインテンプレート内にページのリンクを作成する場合は、下記のようになります。

詳細ページ 詳細ページへ

カテゴリ別一覧ページ #cate_name#

変換キー「#html_ext#」は環境設定で設定した「公開用HTMLファイルの拡張子」の値に変換されます。

✓ 編集可能領域

デザインテンプレートのうち、カテゴリ別一覧と詳細ページに関して、編集可能領域を設定することが出来ます。

編集可能領域とは、本ソフトで作成されたHTMLファイルに、個別に直接編集することができるような領域のことをいいます。

通常カテゴリ別一覧ページや詳細ページは、デザインテンプレートから自動生成されるページのため、出来上がったHTMLファイルを個別に編集しても、再度HTMLを再構築すると元に戻ってしまいます。

そこで編集可能領域を用意し、その中で個別に修正を加えた場合は、HTMLを再構築しても書き換えられることなく編集内容を保持することが出来ます。

編集可能領域は、「<!-- EDIT -->」というコメントタグを2つ使い、編集可能領域の始点と終点の位置を指定します。この二つのコメントタグに挟まれた箇所が編集可能領域となります。

編集可能領域はページ内に複数箇所に設定することが出来ますが、コメントタグ

「<!-- EDIT -->」は2つ一組として使うため、必ずページ内で偶数になるようにしてください。

7. デザインテンプレートを作成する

システム管理者マニュアル Ver1.3

7-3. 基本フレームのデザインテンプレートの作成(1/2)

基本フレームのデザインテンプレートファイル [temp-base.htm]

基本フレームは、ヘッダー、フッター、ナビゲーションなどで構成されるページで、デザインの外枠となる部分になります。(図1)

✓ タイトル

基本フレームのタイトルタグには、下記のように「#TITLE#」という変換キーを加えます。

```
<TITLE>#TITLE# サンプルホームページ</TITLE>
```

#TITLE#部分は一覧ページや詳細ページのタイトルに書き変わり、たとえば全一覧ページ(temp-list.htm)のタイトルが「実績紹介全一覧」というタイトルの場合、自動生成された全一覧ページのタイトルは、下記のようになります。

```
<TITLE>実績紹介全一覧 サンプルホームページ</TITLE>
```

✓ カテゴリメニュー

カテゴリメニューを埋め込みたい箇所に「#MENU#」という変換キーをおいてください。「#MENU#」はデザインテンプレート(temp-menu.htm)より生成されたカテゴリメニューが埋め込まれます。環境設定で「カテゴリメニューの埋め込み方法」で「SSI」を選択した場合は、下記のようなSSIが埋め込まれます。

```
<!--#include file="menu.html" -->
```

「HTML」を選択した場合は、直接HTMLタグが埋め込まれます。

✓ タイトルリスト

タイトルリストは、各カテゴリに登録されているエントリーのタイトル一覧を、カテゴリの一覧ページや詳細ページに表示するためのもので、たとえば、「2007年度実績」というカテゴリがある場合、その中に登録された実績情報のタイトルの一覧をカテゴリ一覧ページや詳細ページに表示させることができます。

利用する場合は、埋め込みたい個所に「#TITLE_LIST#」と記述してください。

✓ ページ本体

一覧ページや詳細ページを表示させたいスペースには「#MAIN#」という変換キーをおいてください。この変換キーに一覧のリストや詳細ページ、検索結果などが置き換わります。

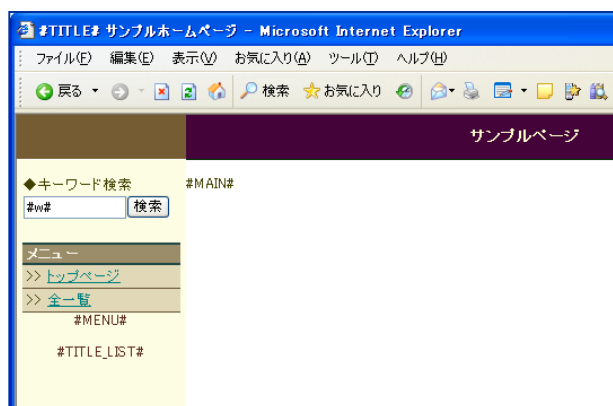


図1: 基本フレーム(temp-base.htm)

カテゴリ一覧ページや詳細ページごとに別々の基本フレームを利用する。

基本フレームの雛型は一覧ページや詳細ページごとに個別に用意することができます。利用する場合は、「temp-base.htm」と同じフォルダ内に以下のファイル名で作成してください。

- 全一覧ページ専用の基本フレーム
temp-base_list.htm
- カテゴリ一覧用の基本フレーム
temp-base_cate.htm
- 詳細ページ専用の基本フレーム
temp-base_detail.htm

7. デザインテンプレートを作成する

システム管理者マニュアル Ver1.3

7-3. 基本フレームのデザインテンプレートの作成(2/2)

✓ キーワード検索フォーム

キーワード検索用のフォームタグは図2のように作成してください。変換キー「#w#」は、検索結果の表示画面で、入力したキーワードをフォーム中に残すために使用されます。

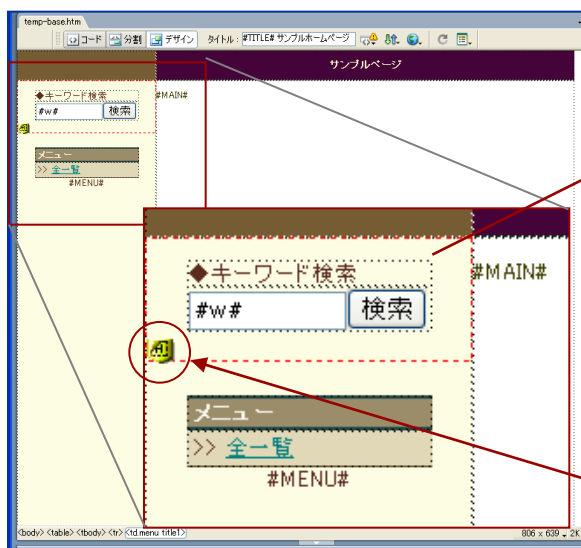


図1: 基本フレーム(temp-base.htm)

フォームのアクション設定は「公開ページ用CGIプログラム」を指定してください。

```
<FORM method="POST" action="index.cgi">
<CENTER><BR>
<TABLE>
  <TR>
    <TD>◆キーワード検索</TD>
  </TR>
  <TR>
    <TD><INPUT size="15" type="text" name="w"
value="#w#"><INPUT type="submit" value="検索"></TD>
  </TR>
</TABLE>
</CENTER>
<INPUT type="hidden" name="action" value="search">
</FORM>
```

図2: 検索用フォームのHTMLタグ

7. デザインテンプレートを作成する

システム管理者マニュアル Ver1.3

7-4. 全一覧ページのデザインテンプレートの作成

全一覧ページのデザインテンプレートファイル [temp-list.htm]

全一覧ページは登録しているすべてのコンテンツ情報を一覧表示するページになります。

✓ デザインパーツ1

デザインパーツ1はページタイトル部分と一覧のリストテーブルに変換される変換キー「#LIST#」で構成されます。

✓ デザインパーツ2

デザインパーツ2は全一覧のリストを作成するためのパーツで、図3のように「<!-- CUT -->」というコメントタグが3箇所入り、Aのカテゴリ名が入るテーブルとBのコンテンツのリストが入るテーブルに切り分けられています。

このAのHTMLとBのHTMLが繰り返されることで図2のようなリストが作成されます。

※デザインパーツ2で利用可能な変換キーは、前項の7-2を参考にしてください。

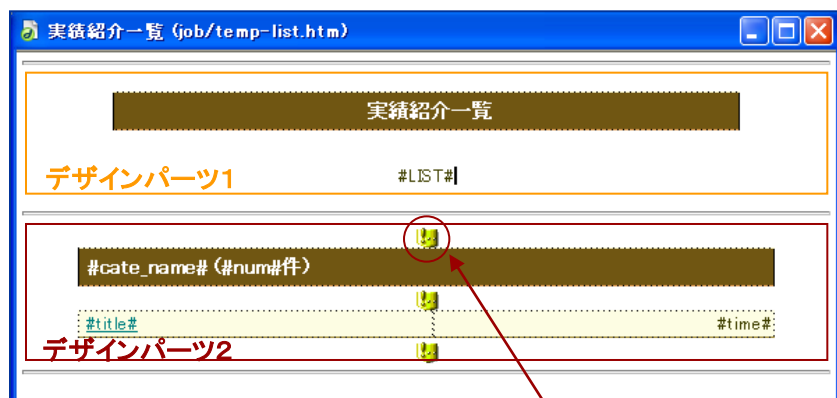


図1: 全一覧 (temp-list.htm)

✓

ページタイトル

ページタイトルで利用可能な変換キーはありません。「実績紹介一覧」といったような、全一覧ページとしてふさわしいタイトルを付けてください。

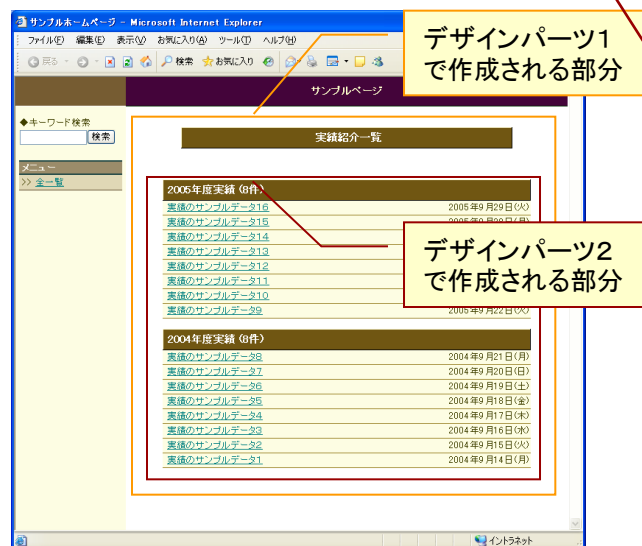


図2: 生成された全一覧ページ

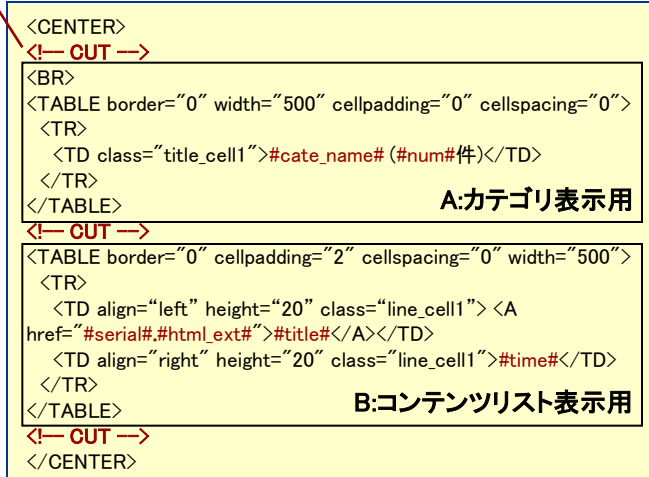


図3: デザインパーツ2のHTML

7. デザインテンプレートを作成する

システム管理者マニュアル Ver1.3

7-5. カテゴリ別一覧ページのデザインテンプレートの作成

カテゴリ別一覧ページのデザインテンプレートファイル [temp-cate.htm]

カテゴリ別一覧ページは管理メニューの「カテゴリ管理」で登録したカテゴリの数だけ作成される一覧ページになります。

✓ デザインパーツ1

デザインパーツ1はページタイトル部分とカテゴリ別一覧のリストテーブルに変換される変換キー「#LIST#」で構成されます。
デザインパーツ1には、編集可能領域を設定することが出来るため、編集可能領域を確保したい場合は、確保したい箇所に専用のコメントタグ「<!-- EDIT -->」を2つ埋め込んでください。
※デザインパーツ1ではカテゴリ用変換キーが利用可能です。

✓ デザインパーツ2

デザインパーツ2はカテゴリ別のリストを作成するためのパーツで、カテゴリに登録されているコンテンツの数だけ繰り返されて一覧ページが作成されます。

テンプレート設定で複数のテンプレートが登録されている場合、デザインパーツ2のデザインは個別に作成した一覧表示用のデザインを利用することが出来ます。
登録したテンプレートごとに個別のデザインを利用するための方法は、「7-8. 詳細ページ用デザインテンプレートの作成」を参照してください。

✓ デザインパーツ3

カテゴリに登録されているコンテンツが何もない場合で、環境設定の「カテゴリにデータが登録されていない場合のHTML作成処理」で「作成する」を選択している場合、デザインパーツ3がデザインパーツ1の#LIST#に置き換わって表示されます。

✓ ページタイトル

ページタイトルには、カテゴリ用変換キーが利用できます。



図1: カテゴリ別一覧 (temp-cate.htm)



図2: 生成されたカテゴリ別一覧ページ

7. デザインテンプレートを作成する

システム管理者マニュアル Ver1.3

7-6. 全一覧、カテゴリー一覧ページで複数列表示を行う方法

一覧ページの作成方法として、図1のように一列で表示する方法のほかに、図2のように複数列表示にすることができます。(検索結果一覧では複数列表示を行うことができません)



図1: 一列表示の一覧ページ

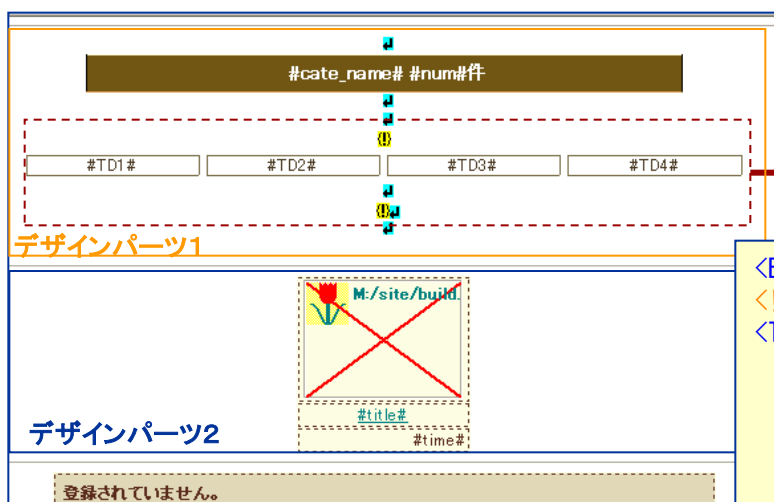


図2: 複数列表示の一覧ページ

✓ 雛型の作成方法

前ページで説明しているデザインパーツ1の作成のところで、一覧表示用の変換キーに「#LIST#」を使うと説明していましたが、複数列表示を行う場合は、「#LIST#」の代わりに下図のような雛型を作成します。

まず、「<!-- LIST -->」ではさまれた部分に、一行分のデザインパーツを作成します。「#TD01#,#TD02#・・・」という部分は、デザインパーツ2が順番に置換されていき、下記の例では4つ置換されたら、次の行を作っていくという流れで、一覧が作成されていきます。#TD**#という変換キーは任意の数を作成できますが、必ず#TD01#,#TD02#,#TD03#・・・と続き番号になるように作成してください。



この部分のソース

```
<BR>
<!-- LIST -->
<TABLE>
  <TR>
    <TD align="center">#TD1#</TD>
    <TD align="center">#TD2#</TD>
    <TD align="center">#TD3#</TD>
    <TD align="center">#TD4#</TD>
  </TR>
</TABLE>
<BR>
<!-- LIST --><BR>
<BR>
```

※この設定方法は、全一覧、カテゴリー一覧共通の設定方法です。

7. デザインテンプレートを作成する

システム管理者マニュアル Ver1.3

7-7. 検索結果一覧のデザインテンプレートの作成

検索結果一覧ページのデザインテンプレートファイル [temp-search.htm]

検索結果一覧ページはキーワード検索を行なった際に表示されるページになります。

✓ デザインパーツ1

デザインパーツ1はページタイトル部分と検索結果一覧のリストテーブルに変換される変換キー「#LIST#」で構成されます。

➤ ページ送りリンク #page_link#

検索結果一覧は、環境設定の「1ページでのログ表示件数」で指定した件数の一覧を作成します。表示件数より多い検索結果が出た場合、変換キー「#page_link#」に「次の〇〇件」といったページ送り用のリンクが表示されます。
たとえば一覧の表示件数を20件と設定し、検索結果が50件あるとした場合の表示例は以下のようになります。

全50件 【No.1 ～ No.20】 / 1 [2](#) [3](#) / [次の20件](#)

検索キーワード #w#

検索フォームより入力した検索キーワードが表示されます。

➤ ヒット件数 #num#

検索にヒットしたログ件数を表示します。

✓ デザインパーツ2

デザインパーツ2は検索結果のリストを作成するためのパーツです。

✓ デザインパーツ3

検索に何もヒットしなかった場合に
表示されるパーツです。利用可能な
変換キーは[#w#]です

✓ ページタイトル

ページタイトルには、カテゴリ用変換
キーが利用できます。

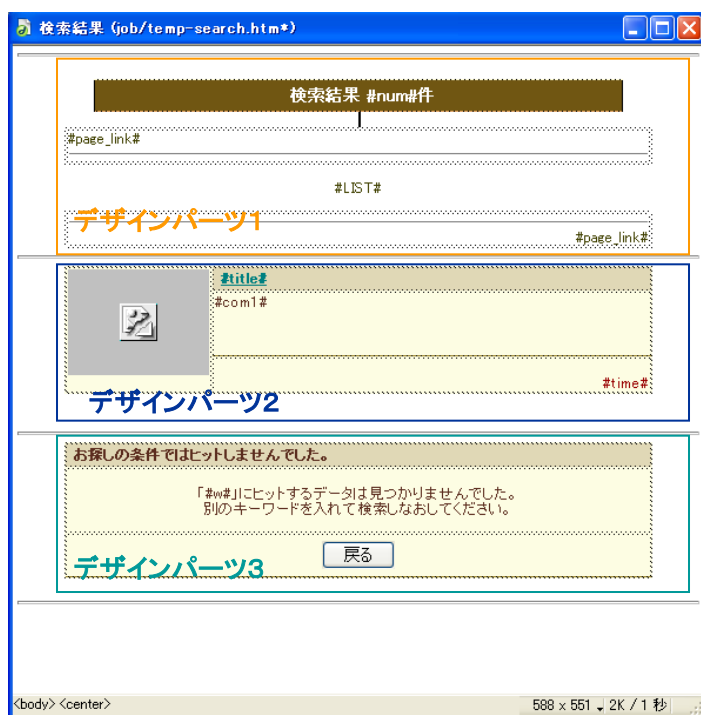


図1: 検索結果一覧 (temp-search.htm)

7. デザインテンプレートを作成する

システム管理者マニュアル Ver1.3

7-8. インデックス表示用デザインテンプレートの作成

インデックス表示用のデザインテンプレートファイル [temp-top.htm]

インデックス表示とは、図1のような登録データ一覧のページで、「TOP」欄にチェックが付いているコンテンツを、指定されたページに表示させるもので、最新のコンテンツや重要なコンテンツをトップページ等にピックアップする際に利用します。

インデックス表示用のデザインテンプレートは「公開HTMLファイル格納フォルダ(例ではjobフォルダ)」に作成しますが、実際に表示されるのは環境設定で指定したインデックスページとなるため、作成しているフォルダと表示されるフォルダの階層が異なる場合があります。その場合、リンク先や画像のパスなどはデザインテンプレートを作成しているところからのパスではなく、インデックス表示を行なうファイルからのパスになるように作成する必要があります。

✓ デザインパーツ1

インデックス表示用のデザインテンプレートで、複数のコンテンツをインデックス表示する場合は、デザインパーツ1のHTMLが表示する数だけ繰り返されます。

✓ デザインパーツ2

インデックス表示を複数列表示にするためのデザインパーツになります。複数列表示を行わない場合は、デザインパーツ2は省略できます。

✓ ページタイトル

※このファイルのページタイトルはどこにも反映されません。

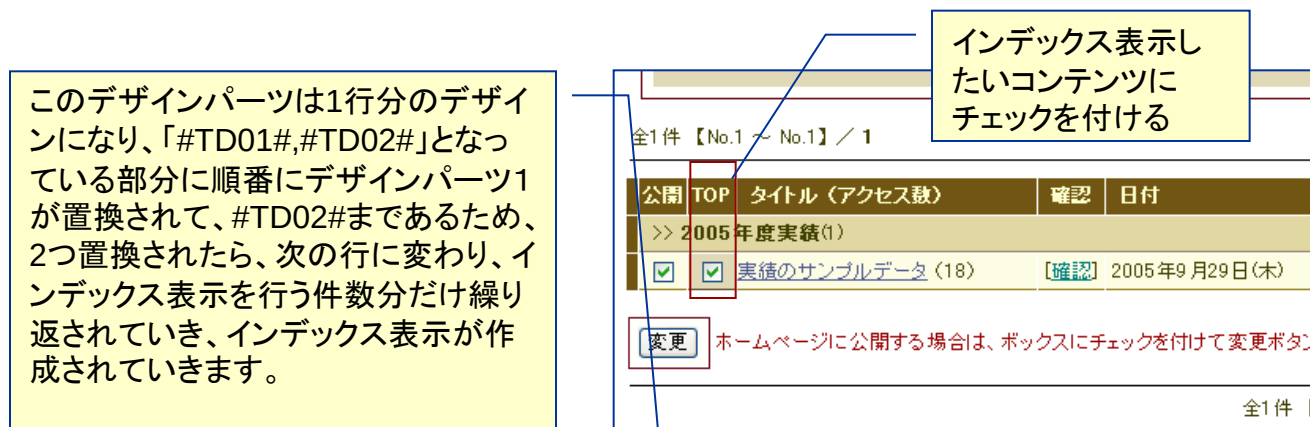


図1: 管理画面の登録データ一覧

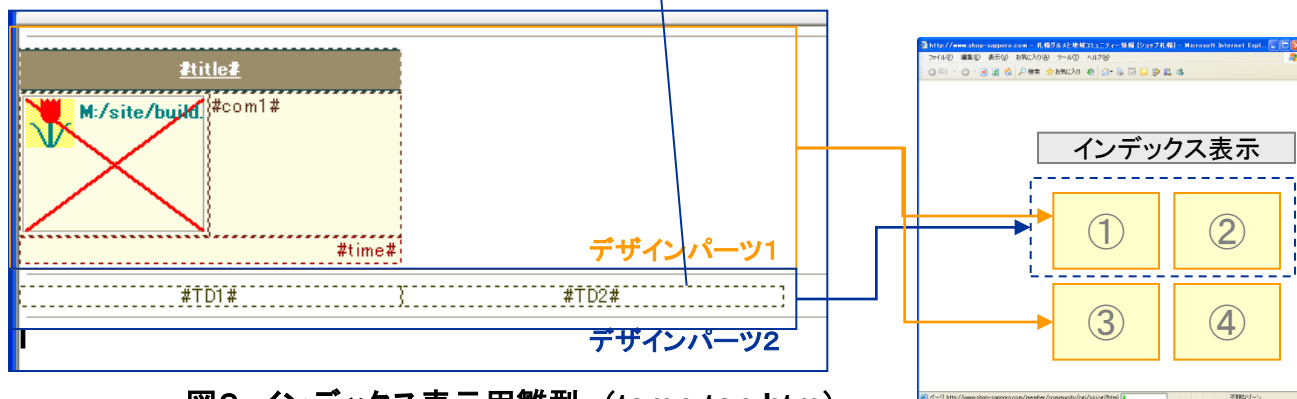


図2: インデックス表示用雛型 (temp-top.htm)

7. デザインテンプレートを作成する

システム管理者マニュアル Ver1.3

7-9. 詳細ページ用デザインテンプレートの作成 (1/3)

詳細ページ用のデザインテンプレートファイルは、管理メニューのテンプレート設定でテンプレートを登録した数だけ作成します。またテンプレートファイルは他のデザインテンプレートとは異なり、管理画面から取り込むようになっていたため、デザインテンプレートファイルを作成する際は、「公開HTMLファイル格納フォルダ」内(例ではjobフォルダ)」で作成し、そのファイルを管理画面から取り込んでください。
ちなみに、取り込まれたデザインテンプレートファイルは、「temp-T01.htm、temp-T02.htm・・・」といったようにテンプレートのコード番号が付加された形で公開HTMLファイル格納フォルダ内に保存されていきます。

✓ デザインパーツ1

デザインパーツ1は詳細ページの本体となる部分のデザインになります。
デザインパーツ1には、編集可能領域を設定することが出来るため、編集可能領域を確保したい場合は、確保したい箇所に専用のコメントタグ「<!-- EDIT -->」を2つ埋め込んでください。

✓ デザインパーツ2

デザインパーツ2は現在作成しているテンプレート専用の「カテゴリ別一覧用代替デザインテンプレート」の作成スペースとなります。このスペースにカテゴリ別一覧用のデザインテンプレートを作成した場合、前項7-5で作成した「カテゴリ別一覧ページのデザインテンプレート」のデザインパーツ2に置き換わってこちらのデザインが利用されます。

✓ デザインパーツ3

デザインパーツ3は現在作成しているテンプレート専用の「インデックス表示用代替デザインテンプレート」の作成スペースとなります。このスペースにインデックス表示用のデザインテンプレートを作成した場合、前項7-7で作成した「インデックス表示用のデザインテンプレート」に置き換わってこちらのデザインが利用されます。

※ デザインパーツ2,3を利用する場合は、作成するデザインテンプレート内に必ず詳細ページへのリンクを入れてください。詳細ページへのリンクがない場合は、代替のデザインテンプレートとはみなされず、標準のデザインテンプレートが利用されます。

✓ ページタイトル

ページタイトルには、デザインパーツ1と同様の変換キーが利用できます。

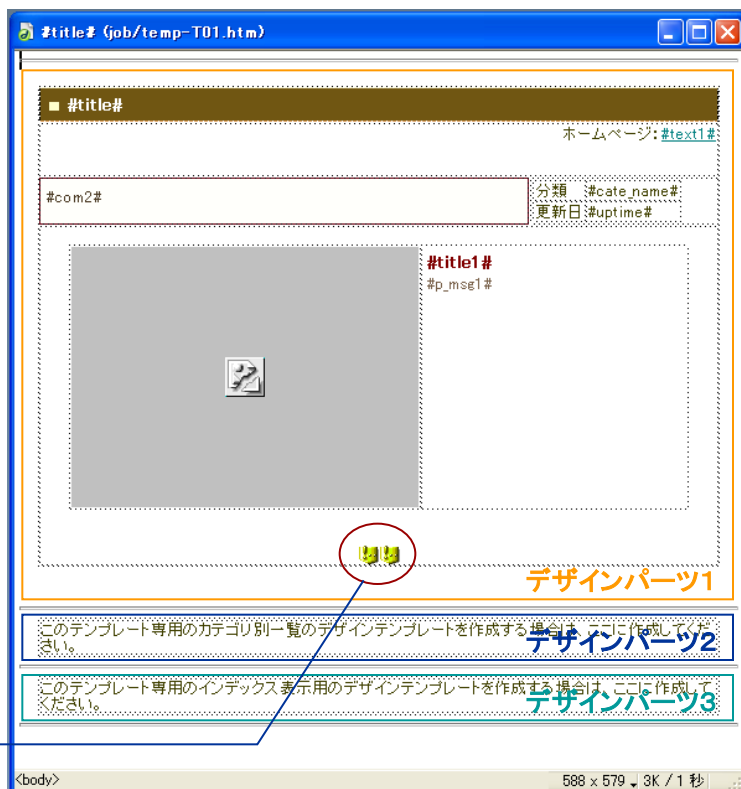


図1: 詳細ページ用デザインテンプレート

編集可能領域を設定するための
コメントタグ
<!-- EDIT --><!-- EDIT -->

7. デザインテンプレートを作成する

システム管理者マニュアル Ver1.3

7-9. 詳細ページ用デザインテンプレートの作成 (2/3)

詳細ページ用デザインテンプレートが完成したら、管理画面から取り込みを行ないます。

管理メニューのテンプレート設定より対応するテンプレート名のところの「HTML編集」ボタンをクリックすると選択したテンプレートのデザインテンプレートのHTMLを取り込むことができます。

作成したテンプレートファイルを取り込むには、「参照」ボタンを押して作成したファイルを選択します。続いて「取り込み」ボタンをクリックすると、HTMLのソースが取り込まれます。このソースで問題なければ、最後に「登録」ボタンを押してください。

ファイルから取り込む以外にもフォームに直接HTMLをコピー&ペーストで書き込むことも出来ます。

>> 新規登録

テンプレート名	利用件数	基本設定	入力フォーム	HTML編集	削除
業務実績(サンプル)	1件	基本設定	入力フォーム	HTML編集	

登録されたデザインテンプレートは、ここからいつでも修正することが出来ます。また、登録したテンプレートファイルをFTPでダウンロードして、直接修正することも出来ます。

FTPでダウンロードする際は、「temp-T**.htm」といったファイルをダウンロードしてきてください。*ととなっている部分は、テンプレートの管理番号で、T01,T02、T03・・・というようになっていきます。

■ 業務実績(サンプル)のデザインテンプレートの設定を行ないます。

業務実績(サンプル)をホームページ上に表示する際に使用するHTMLデザインをテンプレートとして登録します。作成したデザインHTMLをアップロードするには参照ボタンからファイルを指定し、取り込みボタンを押してください。
で座んテンプレートの作成方法は[こちら](#)をご覧ください。

>> デザインテンプレートの作成方法

```
<html>
<head>
<META http-equiv="Content-Type" content="text/html;
charset=Shift_JIS">
<META http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css">
<title>#title#</title>
<LINK rel="stylesheet" href="style.css" type="text/css">
</head>
<body>
<HR width="99%">
<CENTER><BR>
<TABLE cellspacing="1" cellpadding="2" width="550"
border="0">
<COLGROUP>
<COL width=2>
<COL>
<COL width=100>

<TBODY>
<TR>
<TH class="title_cell1" align="left" colspan="2"><FONT
color="#ffffcc" class="font10">■</FONT> #title#</TH>
</TR>
<TR>
<TD colspan="2" align="right">ホームページ: <A
href="#text1#" target="_blank">#text1#</A><BR>
<BR>
```

上記内容でよろしければ、「登録」ボタンを押してください。

修正した詳細ページ用のデザインテンプレートをFTPでアップロードする際は、パーミッションの設定にご注意ください。このファイルは前述のように管理画面からも編集できるようになっているため、CGIから書き換えが出来るパーミッションに設定する必要があります。通常Other権限で動作するWEBサーバの場合は、606に設定すればOKです。

Owner権限で動作するサーバの場合、6**のようになっていれば特に変更する必要はありません。

7. デザインテンプレートを作成する

システム管理者マニュアル Ver1.3

7-9. 詳細ページ用デザインテンプレートの作成 (3/3)

✓ テンプレートを複数登録する場合の補足説明
図1のように、テンプレート設定で、複数のテンプレートを登録すると、登録したテンプレート
の数だけ詳細ページ用のデザインテンプレートを用意する必要があります。

また、テンプレートが複数あるということは、デザインテンプレートを作成する上で必要な変
換キーリストもそれぞれ異なります。変換キーリストは、対応するHTML編集のリンクをク
リックすると、「デザインテンプレートの作成方法」というリンクが出てきます。こちらをクリック
するとそれぞれのテンプレートに対応した変換キーリストが表示されます。

★ カテゴリ別一覧ページとインデックスページについて
カテゴリ別の一覧ページとインデックス表示用のページのデザインテンプレートはそれぞ
れ「temp-cate.htm」「temp-top.htm」が使われますが、前項で説明したデザインパーツ2や
デザインパーツ3を作成することで、一覧を作成する部分のデザインを個別にデザインを
作成することが出来ます。

たとえば、図1のテンプレート「写真なし」の詳細ページ用のデザインテンプレートが図4だ
とすると、デザインパーツ2に代替のカテゴリ別一覧用デザインパーツが作成されているた
め、カテゴリ別の一覧ページは図2のようになります。

テンプレート名	利用件数	基本設定	入力フォーム	HTML編集	削除
写真1枚用	1件	基本設定	入力フォーム	HTML編集	
写真3枚用	0件	基本設定	入力フォーム	未登録	削除
写真なし	0件	基本設定	入力フォーム	未登録	削除

図1:テンプレート設定の登録テンプレート一覧

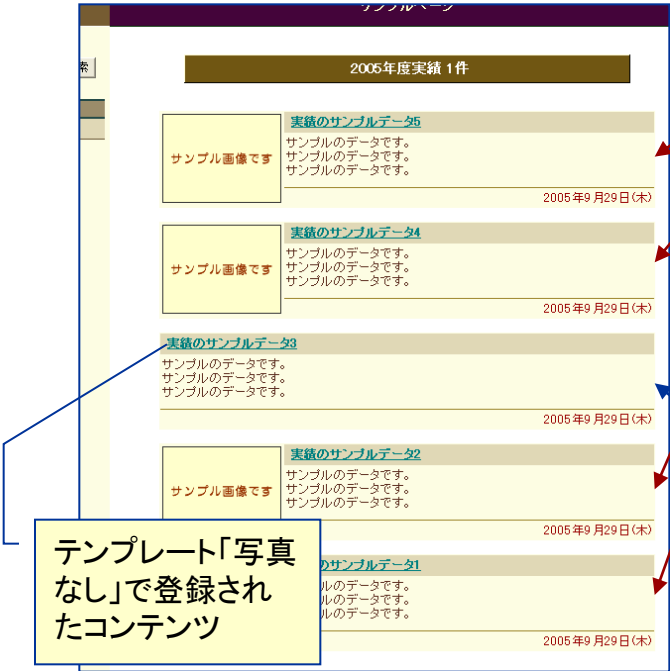


図2:生成されたカテゴリ別一覧ページ

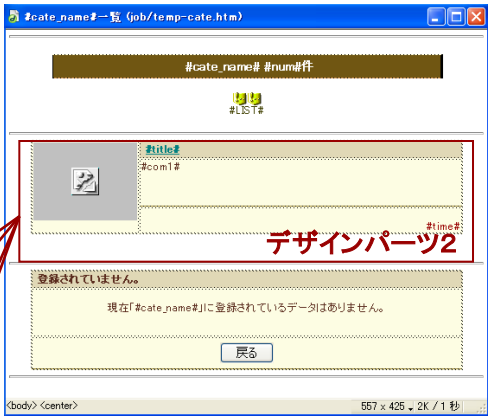


図3:カテゴリ別一覧用デザインテンプレート



図4:「写真なし」用デザインテンプレート

7. デザインテンプレートを作成する

システム管理者マニュアル Ver1.3

7-10. カテゴリメニュー用デザインテンプレートの作成 (1/2)

カテゴリメニュー用のデザインテンプレートファイル [temp-menu.htm]

カテゴリメニュー用のデザインテンプレートは、カテゴリ別一覧ページへリンクするためのメニューと、カテゴリ一覧ページや詳細ページで表示する「タイトルリスト」を作成するための雛型で、基本フレーム内に表示させることができます。
表示方法は、環境設定の「カテゴリメニューの埋め込み方法」で指定した「HTML」か「SSI」のどちらかの方法で表示されます。

- HTML
基本フレームの「#MENU#」という変換キーに作成されたカテゴリメニューのHTMLが埋め込まれる形になります。
- SSI
基本フレームの「#MENU#」という変換キーに下記のSSIタグが埋め込まれます。

```
<!--#include file= "menu.html" -->
```

本ソフト作成されるページ以外にこのカテゴリメニューを表示させたい場合は、上記のSSIタグを利用することで、表示することが出来るようになります。

SSIで表示するHTMLファイルは、「公開HTMLファイル格納フォルダ」内(例ではjobフォルダ)に、menu.htmlというファイル名で作成されます。(ただし、拡張子の.htmlは環境設定で指定した拡張子になります)

✓ デザインパーツ1

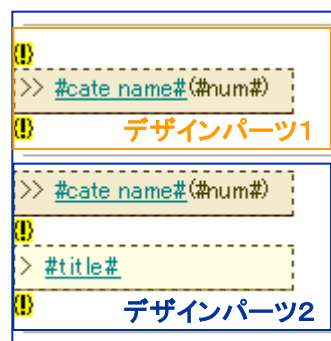
カテゴリ別一覧ページにつながるメニューが作成されます。

利用できる変換キーはカテゴリ用変換キーになります。(7-2参照)

作成されたカテゴリメニューを本ソフトで生成されるページ以外で使用する場合、カテゴリ別一覧へのリンクは、相対パスではなく、絶対パスで記述することをおすすめします。

✓ デザインパーツ2

カテゴリ別一覧ページや、詳細ページで表示する、カテゴリ内に含まれるエントリーのタイトル一覧のメニューを作成するためのパーツになります。



カテゴリリスト

タイトルリスト



カテゴリ一覧ページ

7. デザインテンプレートを作成する

システム管理者マニュアル Ver1.3

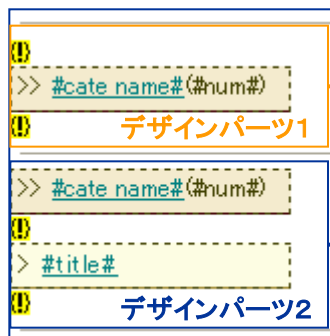
7-10. カテゴリメニュー用デザインテンプレートの作成 (2/2)

カテゴリメニュー用デザインテンプレートのHTMLソースの説明

この「<!-- CUT -->」で挟まれたHTMLが登録されているカテゴリの数だけ繰り返されます。

```
<HR width="99%">
<!-- CUT -->
<TABLE border="0" cellpadding="0" cellspacing="0" width="140">
  <TR>
    <TD height="22"> >> <A href="#cate#. #html_ext#">#cate_name#</A> (#num#) </TD>
  </TR>
</TABLE>
<!-- CUT -->
<HR width="99%">
```

デザインパーツ1のHTMLソース



この「<!-- CUT -->」で挟まれたHTMLがカテゴリに登録されているエントリーの数だけ繰り返されます。

```
<HR width="99%">
<TABLE border="0" cellpadding="0" cellspacing="0" width="140">
  <TR>
    <TD height="22"> >> <A href="#cate#. #html_ext#">#cate_name#</A> (#num#) </TD>
  </TR>
</TABLE>
<!-- CUT -->
<TABLE border="0" cellpadding="0" cellspacing="0" width="140">
  <TR>
    <TD height="22"> > <A href="#serial#. #html_ext#">#title#</A></TD>
  </TR>
</TABLE>
<!-- CUT -->
<HR width="99%">
```

デザインパーツ2のHTMLソース

8. その他の設定と公開準備

システム管理者マニュアル Ver1.3

8-1. 公開用CGIプログラムを設定する

公開用CGIプログラムはデフォルトで「/seisaku/item/index.cgi」の位置にあります。

このCGIプログラムはキーワード検索を行ったり、詳細ページのアクセス数をカウントする際に利用するためのプログラムで、「公開HTMLファイル格納フォルダ」(例ではjobフォルダ)内に入れてください。

✓ 利用環境に合わせた設定事項

本CGIをテキストエディタで開き、利用する環境に合わせて設定を書き換える必要があります。下記の手順に従って設定の変更を行なってください。

➤ Perlのパスの設定

ファイルの1行目にある「#!/usr/bin/perl」という箇所をサーバーの環境に合わせて書き換えてください。

➤ CGIディレクトリの位置

本CGIファイルを設置したフォルダから見たCGIディレクトリ(/seisaku/cgi/)までのパスを指定してください。

たとえば下記のようなフォルダ構成で本CGIスクリプトを設置する場合は以下のような設定になります。

/cgi-bin/seisaku/cgi/	←CGIディレクトリの設置場所
/job/index.cgi	←本CGIファイル

```
my $home_dir = '../cgi-bin/seisaku/cgi';
```

8. その他の設定と公開準備

システム管理者マニュアル Ver1.3

8-2. インデックス表示とピックアップランダム表示

- ✓ インデックス表示をおこなうための設定
 インデックス表示をおこなうための設定は、環境設定の「インデックス設定」でおこないます。
 インデックス表示用のページには、下記のように目印となるインデックス表示用区切り文字をタグの先頭と終わりに埋め込んでおく必要があります。
 区切り文字のコメントタグは必ずページ内に2箇所入るようにしてください。
 また、インデックス表示をおこなうページは、本ソフトで書き換えをおこなうため、書き換えが可能なパーミッションに変更しておく必要があります。
 通常Other権限で動作するWEBサーバの場合は606にすればOKです。

サンプルページ

◆キーワード検索

検索

実績紹介

実績のサンプルデータ

サンプルのデータです
 サンプルのデータです
 サンプルのデータです

2005年9月29日(木)

```
<!-- index -->
<TABLE border="0" cellpadding="2" cellspacing="0" width="250">
<TR>
<TH colspan="2"><A href= ". /job/p0001.html">実績のサンプルデータ</A></TH>
</TR>
<TR>
<TD width="120" valign="top">
<A href= ". /job/p0001.html"><IMG src=". /job/photo/p0001-photo0.gif"></A>
</TD>
<TD valign="top">サンプルのデータです。<BR>サンプルのデータです。</TD>
</TR>
<TR>
<TD align="right" valign="bottom" colspan="2">2005年9月29日(木)</TD>
</TR>
</TABLE>
<!-- index -->
```

インデックスページ (/index.html)

- ✓ ピックアップランダム表示
 ピックアップランダム表示とは、インデックス表示を行なうために選択したコンテンツをSSIを利用して1件だけランダムに表示するための機能です。
 複数のコンテンツがインデックス表示用として選択されている場合は、ピックアップランダム表示用のSSIが埋め込まれているページにアクセスしたユーザーには、アクセスするたびに異なるコンテンツを表示させることができます。

利用するには、ピックアップランダム表示を行ないたいページに下記のようなSSIタグを埋め込みます。

```
<!--#include virtual= ". /seisaku/index.cgi?action=random" -->
```

例では、前項5-1で指定したサンプルのディレクトリ構造で設置された環境で、トップページ「/index.html」にピックアップランダム表示を行なうことを前提としています。
 実際に設置する場合は、「./seisaku/index.cgi」の部分でSSIを埋め込むページから見た公開用CGIプログラムまでのパスを指定してください。

表示するデザインテンプレートは、前項7-7で作成した「インデックス表示用デザインテンプレート」が使われます。

※ SSIを埋め込むページが1箇所ではなく複数のページになる場合は、デザインテンプレートに相対パスが含まれていると、表示する場所によってはリンク切れになる可能性があります。そのような場合は、相対パスではなく絶対パスで記述するようにしてください。

※ この機能は、利用するサーバーがSSIの使用を許可している必要があります。不明な場合はサーバ管理者にお尋ねください。

8. その他の設定と公開準備

システム管理者マニュアル Ver1.3

8-3. サーバへのアップロードと動作確認

作成したデザインテンプレートファイルは、すべてFTPでサーバにアップロードする必要があります。

アップロードが完了したら、実際にコンテンツの入力をおこなってみて、正しくページが作成されているか確認します。

1. カテゴリの登録

管理メニューのカテゴリ管理より必要なカテゴリを登録します。

カテゴリの登録
フォームです。新
しいカテゴリはこ
から登録します。

■ カテゴリの追加

カテゴリ名	利用件数	修正	削除	順序
2005年度実績	0件	修正	削除	↓
2004年度実績	0件	修正	削除	↑ ↓
2003年度実績	0件	修正	削除	↑

カテゴリの表示順
序を変更する場
合は「↑↓」ボタ
ンで調整してく
ださい。

順序変更やカテゴリ名
の変更といった作業を行
った場合は、必ず「変
更を確定する」ボタ
ンを押してください。
このボタンを押さな
いと変更内容がホーム
ページに反映されませ
ん。

カテゴリの登録・修正・削除や順序の変更を行なった
場合は、必ず下記のボタンをクリックしてください。

変更を確定する

図1: カテゴリ管理

カテゴリに登録して
いるログの件数で
す。1件でも登録さ
れている場合は、カ
テゴリの削除をおこ
なうことは出来ませ
ん。

2. コンテンツの登録

管理メニューの「新規登録」よりコンテンツの新規登録をおこな
います。

「6-2. 入力フォームの項目設定」で作成した入力フォーム
が表示されていますので(図2)、必要事項を記入して登録をお
こなってください。

3. 登録されたコンテンツの確認

登録が完了すると、登録データ一覧に表示されます(図3)。一
覧で「確認」のリンクをクリックすると作成された詳細ページの
HTMLファイルが開きます。
一覧ページやインデックスページも正しく作成されているか確
認してください。また、キーワード検索を行う場合は、実際に検
索をおこなってみて動作の確認をおこなってください。

全1件 【No.1 ~ No.1】 / 1

公開	TOP	タイトル (アクセス数)	確認	日付
>> 2005年度実績(1)				
☒	☒	実績のサンプルデータ (19)	確認	2005年9月29日(木)

登録したコンテ
ンツの詳細ペ
ージを確認する

変更 ホームページに公開する場合は、ボックスにチェックを付けて変更ボタンを押してください。

全1件 【No.1 ~ No.1】 / 1

図3: 登録データ一覧

業務実績登録のサンプルフォームです。
画像はサムネイル用画像(120×90ピクセル)とメイン画像(280×210ピクセル)の2枚をあらかじめ
用意しておいてください。

下記フォームに必要事項を記入し、確認画面に進んでください。

タイトル*	
タイトルを入力してください。	
カテゴリ*	2005年度実績
ホームページ	
実績概要*	
一覧表示の際に表示される実績概要になります。 50文字程度で簡潔に記述してください。	
実績詳細*	
サムネイル画像	参照...
一覧表示で表示するサムネイル画像を登録してください。 画像サイズは120×90Jにしてください。	
メイン画像	参照...
280×210ピクセルの画像を登録してください。	
メイン画像のタイトル	
メイン画像の説明	
確認画面へ	

図2: 新規登録フォーム

9. その他の技術情報

システム管理者マニュアル Ver1.3

9-1. スタイルシートが正しく適用されない場合の設定(1/2)

図3のように、スタイルシートが正しく適用されていないために表示が崩れてしまっている場合があります。これは、お使いのWEBサーバの仕様で、CGIなどの実行ファイルをおくディレクトリと、HTMLや画像ファイル、CSSファイルなどを置くディレクトリ混在させることが出来ないようになっているからです。その様な仕様のため、管理画面で利用しているCSSファイルや画像ファイルが読み込むことが出来ず、図3のようになってしまいます。

対策として、画像やCSSファイルが格納されている「imageフォルダ」を読み込み可能な領域に移動する必要があります。

設定方法

まず、管理画面の「フォルダ設定」メニューを開きます。

その中に「イメージファイル格納フォルダ」の設定で、CGIファイルの格納領域以外に移動します。

(大抵のサーバは「cgi-bin」フォルダをCGI専用のフォルダにしている場合が多いため、cgi-binフォルダ以外の場所にimageフォルダを移動することで正しく表示できるようになります。)

※フォルダ設定の方法につきましては、「4-4. フォルダ位置の設定」をご参照ください。

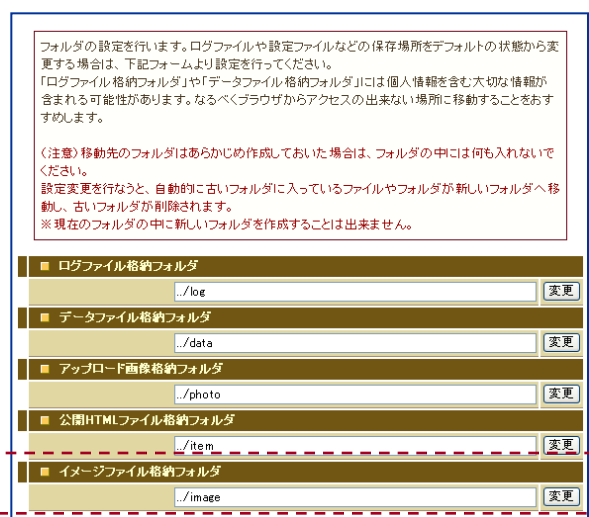


図1:フォルダ設定画面



図2:スタイルシートが適用されている状態

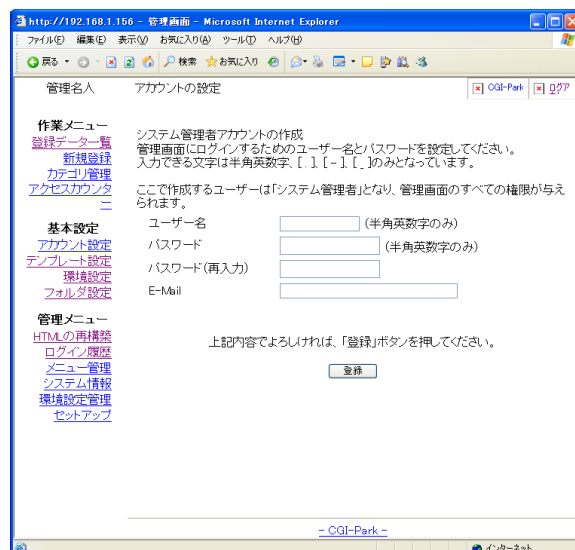


図3:スタイルシートが適用されていない状態

6. その他の技術情報

システム管理者マニュアル Ver1.3

9-1. スタイルシートが正しく適用されない場合の設定(2/2)

前ページの設定でimageフォルダの移動処理を行なってもエラーになってしまい正しくフォルダの移動が行えない場合は、手動で移動することが出来ます。

✓ 設定方法

「jyusin¥cgi¥folder.pl」をテキストエディタで開くと「イメージファイル格納フォルダ」の設定箇所があります。

```
### イメージファイル格納フォルダ
$ImageDir = "../image";
```

ここで、「../image」の箇所を移動先のパスに書き換えます。
パスの記述方法は**必ず相対パスで記述**する必要があります。相対パスは「cgi/admin.cgi」から見たパスを記述してください。

たとえば、最初の状態が以下のような構成になっているとします。

```
/cgi-bin/seisaku/cgi/admin.cgi    ← admin.cgiの位置
/cgi-bin/seisaku/image/           ← imageフォルダの位置
```

ここから、imageフォルダを以下の位置に移動したいとすると

```
/cgi-bin/seisaku/cgi/admin.cgi    ← admin.cgiの位置
/form/image/                      ← imageフォルダの位置
```

「\$ImageDir」の設定は以下ようになります。

```
### イメージファイル格納フォルダ
$ImageDir = "../../form/image";
```

次に実際にimageフォルダをFTPソフトを利用して「/cgi-bin/seisaku/image/」から「/form/image/」に移動します。

これで手動での設定が完了です。
再度管理画面にアクセスしてみて正しくスタイルシートが適用されているかご確認ください。

9. その他の技術情報

9-2. 管理画面へのログイン履歴

✓ 管理画面へのアクセス履歴を確認する

本ソフトでは、管理画面へのアクセス履歴をすべて保存しています。記録する項目は、「アクセス履歴」「ログイン履歴」「ログアウト履歴」で、すべての項目に対して、「日時」「ログインユーザー名」「アクセス元ホスト情報」などが記録されます。

➤ アクセス履歴

管理画面へ一度ログインするとデフォルトでは、10日間クッキーが保存され、ログインを行なわなくても、管理画面にアクセスできるようになります。そのようにクッキーを利用してログインした管理者の履歴を、前回のアクセス日時から6時間以上経過した場合、新たなアクセスとして記録されます。

➤ ログイン履歴

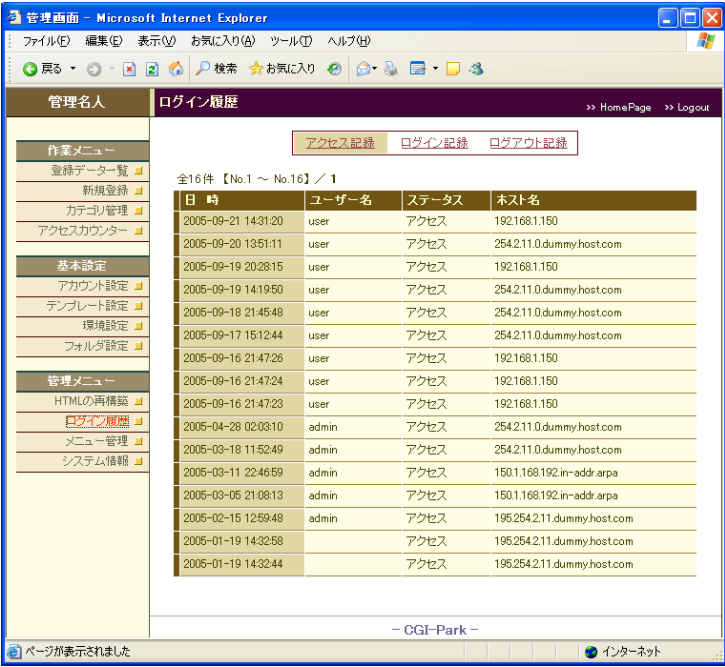
管理画面にユーザー名とパスワードを使ってログインした場合、ログイン履歴として記録されます。

ログイン履歴は、どのユーザーがログインしたか、また、ログインは成功したか失敗したかが記録されます。

たとえば、登録されていないユーザー名で何度もログインを行なって失敗している形跡があると、悪意のある第三者が不正にログインを行なおうとしている痕跡かもしれません。

➤ ログアウト履歴

管理画面からログアウトを行なった、ユーザーと日時、ホスト名が記録されます。



日時	ユーザー名	ステータス	ホスト名
2005-09-21 14:31:20	user	アクセス	192.168.1.150
2005-09-20 13:51:11	user	アクセス	254.211.0.dummy.host.com
2005-09-19 20:28:15	user	アクセス	192.168.1.150
2005-09-19 14:19:50	user	アクセス	254.211.0.dummy.host.com
2005-09-18 21:45:48	user	アクセス	254.211.0.dummy.host.com
2005-09-17 15:12:44	user	アクセス	254.211.0.dummy.host.com
2005-09-16 21:47:26	user	アクセス	192.168.1.150
2005-09-16 21:47:24	user	アクセス	192.168.1.150
2005-09-16 21:47:23	user	アクセス	192.168.1.150
2005-04-28 02:03:10	admin	アクセス	254.211.0.dummy.host.com
2005-03-18 11:52:49	admin	アクセス	254.211.0.dummy.host.com
2005-03-11 22:46:59	admin	アクセス	150.1.168.192.in-addr.arpa
2005-03-05 21:08:13	admin	アクセス	150.1.168.192.in-addr.arpa
2005-02-15 12:59:48	admin	アクセス	195.254.211.dummy.host.com
2005-01-19 14:32:58		アクセス	195.254.211.dummy.host.com
2005-01-19 14:32:44		アクセス	195.254.211.dummy.host.com

ログイン履歴照会画面

9. その他の技術情報

システム管理者マニュアル Ver1.3

9-3. 管理メニューの設定

✓ 管理画面のメニューアクセス権限を設定する

管理画面の左側メニューのアクセス権限設定が行なえます。
システム管理者向けのメニューなのか、ホームページ管理者向けのメニューなのかを切り替えます。
通常は特に変更する必要はありませんが、システム管理者向けのメニューをホームページ管理者でもアクセスできるようにしたり、逆にホームページ管理者向けのメニューをシステム管理者専用のメニューに変更したりする際に、ここで設定を行ないます。

管理メニューのアクセス権限を変更する場合は、チェックボックスのチェックを変更して、「アクセス権限の変更」ボタンをクリックしてください。
メニューをシステム管理者権限にして、ホームページ管理者にはアクセスできないようにするには、アクセス権限のチェックボックスにチェックを付けてください。

メニュー	リンク先	アクセス権限
作業メニュー		☐ システム管理者
登録データ一覧	admin.cgi?html=log	☐ システム管理者
新規登録	admin.cgi?html=log&action=new	☐ システム管理者
カテゴリ管理	admin.cgi?html=category	☐ システム管理者
アクセスカウンター	admin.cgi?html=count	☐ システム管理者
基本設定		☐ システム管理者
アカウント設定	admin.cgi?html=account	☐ システム管理者
テンプレート設定	admin.cgi?html=template	☒ システム管理者
環境設定	admin.cgi?html=conf	☒ システム管理者
フォルダ設定	admin.cgi?html=folder	☒ システム管理者
管理メニュー		☒ システム管理者
HTMLの再構築	admin.cgi?html=html&action=remake	☒ システム管理者
ログイン履歴	admin.cgi?html=login&action=check	☒ システム管理者
メニュー管理	admin.cgi?html=menu&action=setup	☒ システム管理者
システム情報	admin.cgi?html=admin&action=show_license	☒ システム管理者

アクセス権限の変更

メニュー設定画面

9. その他の技術情報

システム管理者マニュアル Ver1.3

9-4. 本ソフトのライセンス情報について

管理メニューの「システム情報」を選択すると、本ソフトに登録しているライセンス情報や商品のバージョン情報が確認できます。

また、CGI-Parkの商品データベースにアクセスし、最新のアップデートファイルが公開されていないか、確認します。もし、最新のアップデートファイルが公開されていれば、アップデート情報の欄に「最新のアップデートファイルが公開されています」といったメッセージが表示され、アップデートファイルが公開されているページのリンクが表示されます。

最新のアップデートファイルが公開されていればここにメッセージが表示されます。

アップデート情報

現在は最新の状態です。

本ソフトのバージョン情報や、登録したライセンス情報が表示されます。

■ バージョン情報	管理名人 Ver 1.0.0
■ ライセンスコード	L10115204-0870-8081
■ 設置サイト	CGI-Parkサンプル
■ 設置サイトURL	http://sample.cgi-park.com
■ テストサーバー	
■ 登録日時	2005年11月10日(木)

メンテナンス		
■ アップデート	システムのアップデートを行ないます。	>> GO
■ システム再構築	システムファイルを再構築します。	>> GO
■ 作業履歴	システムのアップデートや再構築の作業履歴が確認できます。	>> GO

システム情報

9-5. システムのアップデート (1/2)

✓ アップデートについて

CGI-Parkのホームページより最新版のアップデートファイルを手に入れたら、管理メニューの「システム情報」より、アップデート作業を行なうことが出来ます。アップデートファイルは、必ず現在利用している製品のバージョンに対応したものを入手してください。

アップデートファイルが複数公開されている場合は、一番古いものから順に当てていってください。順番を間違えると正しくアップデートが行なわれません。

✓ アップデートファイルの種類

アップデートファイルには2種類あり、一つはプログラムファイルや設定ファイルを新しいものにおきかえるというもので、もう一つは実行ファイルが含まれており、アップデートを実行するとプログラムが起動し、システム内の情報を書き換えるタイプのものです。アップデートファイル内に「exe.pl」が含まれている場合は、後者の実行ファイル入りのアップデートファイルとなります。

✓ 注意事項

・本ソフトは、基本的には改造不可としていますが、もし、何らかの改造を加えた場合は、アップデートを行なうことで、改造を施したファイルが最新のファイルに上書きされ、元に戻ってしまう可能性があります。

独自に改造を行なっている場合は、アップデートは行わないでください。

・アップデート処理は、設置しているサーバの環境により正しく行えない場合もあるかもしれません。万が一のトラブルに備え、事前にログファイル等をバックアップしてからアップデートを行なうことをおすすめします。

万が一アップデートにより、システムが破損してしまった場合でも、当社では一切責任を負いかねますので、アップデートを実施する際は、バックアップをとった上で自己の責任において実施してください。

9. その他の技術情報

システム管理者マニュアル Ver1.3

9-5. システムのアップデート (2/2)

✓ アップデートの開始

1. 管理メニューの「システム情報」を選択し、「アップデート」という項目のボタンをクリックします。
2. 「参照」ボタンをクリックし、CGI-Parkホームページより入手したアップデートファイル(拡張子が.cpmとなっているファイル)を選択し、「開く」ボタンを押してください。(図1)
3. ファイルを選択したら「確認」ボタンをクリックしてください。誤ったアップデートファイルを選択したら、エラーメッセージが表示されます。正しいファイルを選択しなおしてください。
正しいアップデートファイルを選択したら、アップデート内容の説明や、更新対象のファイル等の情報が確認できます。(図2)
4. アップデート情報を確認し、内容に問題がなければ「アップデート実行」ボタンを押してください。アップデートが実行され、システムの更新が開始されます。
5. アップデート処理が終了すると、アップデートの完了画面が表示されます。これでアップデート処理は正常に終了しました。

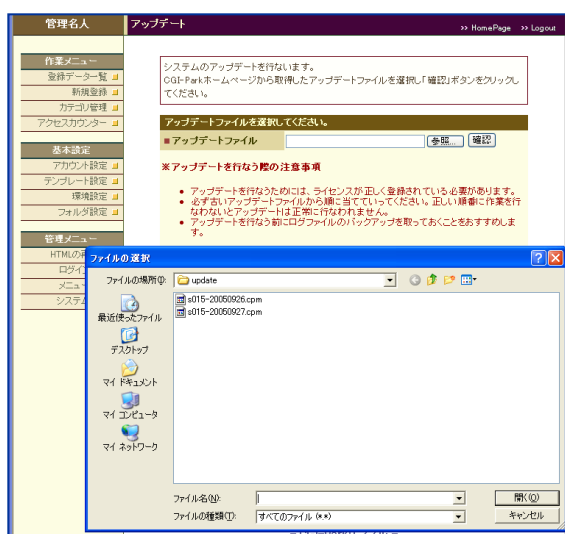


図1: アップデートファイルの選択

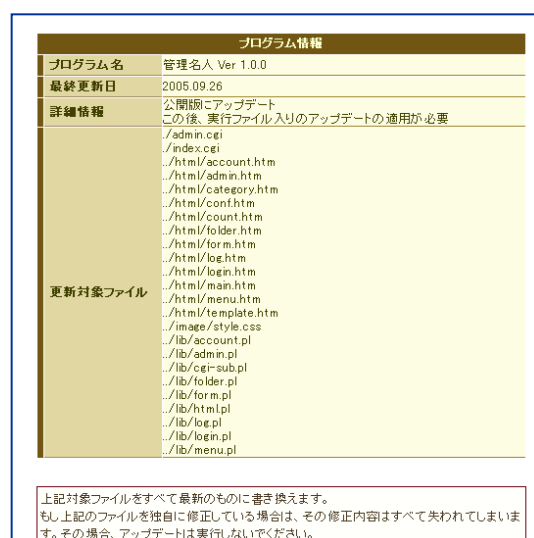


図2: アップデートファイルの確認

✓ アップデート履歴の確認

アップデートを行なった日時や処理内容が履歴として保存されます。「システム情報」ページの作業履歴の項目のボタンをクリックすると今まで行なったアップデート作業等が表示されます。

9-6. システムの再構築

- ✓ システムの再構築について
- プログラムファイルやHTMLデザインファイル等が万が一破損して正しく処理が行えなくなってしまう場合、最後にアップデートを行ったときの状態にシステムを復元することが出来ます。
- ✓ 再構築を実行するうえでの注意事項
- ・本ソフトは、基本的には改造不可としていますが、もし、何らかの改造を加えた場合は、再構築を行なうことで、改造を施したファイルが元のファイルに上書きされ、元に戻ってしまう可能性があります。
 - ・再構築処理は、設置しているサーバの環境により正しく行えない場合もあるかもしれません。万が一のトラブルに備え、事前にログファイル等をバックアップしてから再構築を行なうことをおすすめします。
- 万が一再構築により、システムが破損してしまった場合でも、当社では一切責任を負いかねますので、再構築を実施する際は、バックアップをとった上で自己の責任において実施してください。

- ✓ 再構築を実行する
1. 管理メニューの「システム情報」を選択し、システム再構築の項目のボタンをクリックしてください。
 2. 再構築の確認画面が表示されます。(図1)
更新対象ファイルという項目で表示されているファイルが、再構築を実行するファイルの一覧です。
もしこの中に更新したくないファイルが含まれている場合は、再構築は行わないでください。再構築を行なうことで、初期状態に戻ってしまいます。
 3. 更新ファイルを確認し、再構築を行なってもよろしければ「再構築を実行」ボタンをクリックしてください。再構築の処理が開始されます。
 4. 処理が完了すると、再構築の完了画面に切り替わります。これで、再構築処理が正常に終了しました。

システムの再構築を実施します。
よろしければ「再構築を実行」ボタンを押してください。

プログラム情報	
プログラム名	管理名人 Ver 1.0.0
最終更新日	2005.09.27
更新対象ファイル	/admin.cgi /index.cgi /data/account.db /data/conf.db /data/count.db /data/form_set.db /data/index.htm /data/log.db /data/login.db /data/template.db /data/up_record.db /html/account.htm /html/admin.htm /html/category.htm /html/conf.htm /html/count.htm /html/folder.htm /html/form.htm /html/log.htm /html/login.htm /html/main.htm /html/menu.htm /html/template.htm /lib/account.pl /lib/admin.pl /lib/category.pl /lib/cgi-lib.pl /lib/cgi-sub.pl /lib/conf.pl /lib/count.pl /lib/folder.pl /lib/form.pl /lib/html.pl /lib/jcode.pl /lib/log.pl /lib/login.pl /lib/menu.pl /lib/template.pl

上記対象ファイルをすべて再構築します。
もし上記のファイルを独自に修正している場合は、その修正内容はすべて失われてしまいます。
その場合、再構築は実行しないでください。

再構築を行ってもログファイルには影響を与えることはありませんが、再構築の途中で処理が止まったり、ファイルのパーミッションが正しく設定されていないためにエラーに

図1:再構築の確認画面